令和８年８月２５日
子ども・若者部
教育委員会事務局

せたがや架け橋プログラム（案）について

１　主旨

区では、国における「架け橋プログラム（※）」の推進を踏まえ、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、世田谷区の特色を生かした「架け橋プログラム」の策定に向けて検討を進めてきた。

このたび、「せたがや架け橋プログラム（案）」を取りまとめたので、報告する。

※５歳児から小学校１年生の２年間を「架け橋期」と捉え、学びと育ちを繋げていく事を目指す。

２　プログラム作成の経緯

区では、平成２８年度に「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム」を作成し、平成２９年度から３０年度の試行を経て、令和元年度より区立小学校及び区立幼稚園・保育園において実施している。

また、令和３年度には「世田谷区教育・保育実践コンパス」を策定するとともに、「学び舎」への参加対象を区立幼稚園に加え、私立幼稚園や保育所等へ拡大するなど、幼児教育と小学校教育の連携・接続の充実を図ってきた。

こうした取組みを踏まえ、令和５年度に改訂委員会及び作業部会を設置し、モデルとなる学び舎における実践的な検証を行いながら、区の特色を生かした「せたがや架け橋プログラム」の検討を進めてきた。

令和８年６月には、プログラム案を各園・各校の実情に即した、より活用しやすい内容とするため、区立小学校及び就学前施設を対象にアンケートを実施し、寄せられた意見を踏まえて内容の検討を行った。

３　プログラム案の概要

（１）解説編

- 「せたがや架け橋プログラム」のねらい
- 幼児教育と小学校教育の関係
- 「架け橋プログラム」と「アプローチ・スタートカリキュラム」の関係
- 世田谷区の特色（学び舎、乳幼児教育支援センター、非認知能力の育成）
- 学び舎で取り組む「架け橋プログラム」について　など

（２）実践編

・ 幼保小の連携・接続を進めるためのチェックリストの活用

・ 「架け橋期のカリキュラム」の作成・実践・評価・改善　など

（３）事例集

・ 架け橋期の取組に係るモデル研究や実践事例の掲載

４　今後のスケジュール（予定）

令和８年１０月以降　「せたがや架け橋プログラム」完成

１１月以降　解説動画の作成・配信や研修の実施等による活用支援

教育課程編成の補助資料としての提供や就学前施設への周知

令和９年度以降　「せたがや架け橋プログラム」の取組促進に向けた研修や実践事例の共有

令和 10 年度以降　「架け橋期のカリキュラム」を各小学校から区へ提出

※全 29 学び舎が「魅力ある学び舎」になることと連携した取組支援検討

「教育振興基本計画」等の改定にあわせた内容の見直し等

せたがや
架け橋プログラム(案)

― 解説と実践の手引き ―

学びと育ちを
つなぐ・つながる

令和　年　月

世田谷区教育委員会
乳幼児教育支援センター

目次

解説編

はじめに 1
『せたがや架け橋プログラム−解説と実践の手引き−』活用の手順 2
第1章 『せたがや架け橋プログラム』の推進 3
1 『せたがや架け橋プログラム』の推進にあたって 4
2 学びと育ちをつなぐ・つながる 5
(1)「せたがや架け橋プログラム」のねらい 5
(2)幼児教育と小学校教育の関係 6
(3)『せたがや架け橋プログラム』と世田谷版アプローチ・スタートカリキュラムの関係 6
コラム 「地域みんなで“こどもまんなか”につなぐ・つながる」 9
第2章 学び舎での連携・協働 11
1 世田谷区の特色 12
(1)学び舎と窓口園 12
(2)乳幼児教育支援センターとの連携 13
(3)非認知能力(社会情動的スキル)の育成 13
2 学び舎で取り組む架け橋プログラムについて 14
コラム 「連携は身近な一歩から」 16

実践の手引き編

第3章 「子どもたちの姿から互いの教育・保育 内容を話し合える」関係性の構築 17
1 自園・自校の連携・接続の現状を確認しましょう! 18
2 架け橋プログラムを進めましょう! 19
(1)ホップ 基盤づくり 19
(2)ステップ 連携・接続の実施 20
(3)ジャンプ 連携・接続の充実 21
コラム 「連携したい…でも時間がない」 22
第4章 架け橋期のカリキュラムの作成と 活用方法について 23
1 架け橋期のカリキュラムを作成してみましょう! 24
2 互いを理解するための4つのポイント 25
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) 26
育みたい資質・能力(3つの柱) 28
非認知能力(社会情動的スキル) 28
コラム 幼児教育で大切にしている「環境を通して行う教育」って? 29
3 架け橋期のカリキュラムの作成手順 30
4 架け橋期のカリキュラムにおける各項目について 32
コラム 「カリキュラム作成の最初の一歩は対話」 34
第5章 参考資料 35
架け橋期のカリキュラム 作成例 36
架け橋期に育みたい子どもの姿や配慮点 38
「世田谷区学校教育」推進のための研究全体構想図 40
非認知能力の5つの視点と具体的な項目 41
コラム 「子どものウェルビーイングを実現する教育・保育」 42
第6章 事例集 43

はじめに

≪箕輪先生執筆≫

『せたがや架け橋プログラム-解説と実践の手引き-』活用の手順

『せたがや架け橋プログラム』は、以下の手順に基づいて学び舎を活用し、公私立幼稚園・保育所・認定こども園等（以下「就学前施設」という）と小学校（以下「幼保小」という）が架け橋期の取組みの充実を進めていくためのものです。

解説

第1章『せたがや架け橋プログラム』の推進 ⇒ P3

架け橋期のねらいを踏まえ、教育・保育の充実、接続・連携の重要性について共通理解していきましょう。

解説

第2章 学び舎での連携・協働 ⇒P11

区の特色である学び舎を活用しながら、架け橋プログラムを進めていきましょう。

実践の手引き

第3章 「子どもたちの姿から互いの教育・保育内容を話し合える」関係性の構築 ⇒P17

チェックリストを活用しながら、幼保小の管理職や担当者が、互いの教育・保育について話し合える関係づくりを図りましょう。

実践の手引き

第4章 架け橋期のカリキュラムの作成と活用方法について ⇒P23

幼保小が協働してカリキュラムを作成しましょう。また、実践後、子どもの姿を振り返る話し合いを通して連携を深めましょう。

解説

第１章 『せたがや架け橋プログラム』の推進

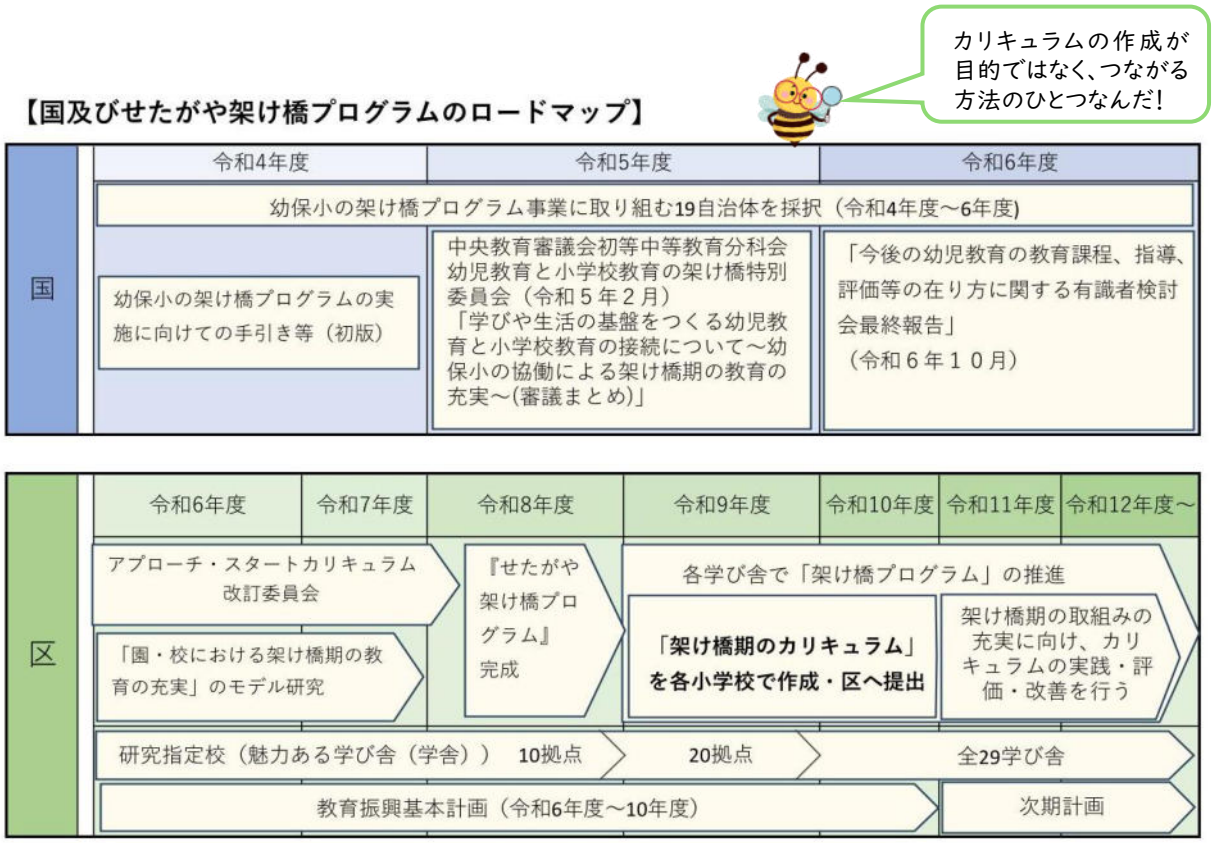
Ⅰ『せたがや架け橋プログラム』の推進にあたって

・世田谷区（以下「区」という。）では、平成28年度に、世田谷版アプローチ・スタートカリキュラムを策定し、幼児教育・保育と小学校教育との連携・接続に取り組んできました。
・令和4年度から、学び舎（学舎）※に就学前施設が参加し、幼児と児童との交流活動を推進してきました。
・令和4年度末、中央教育審議会 初等中等教育分科会及び幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会が示した「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」において、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に取り組むことの必要性が示されました。
・令和6年度に、「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会の最終報告」において、「幼保小の架け橋プログラム」の推進により、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて協働して取り組んでいくことの必要性が示されました。
・これを受け、区では令和6～7年度に、みどりの学び舎（区立八幡山小学校・八幡山幼稚園・松沢保育園）及び砧の学び舎（区立砧小学校、砧幼稚園）において架け橋期におけるモデル研究を実施しました。この成果等を踏まえ、区の特色を活かした幼保小の連携・協働を進めるため、本書を作成しました。

※学び舎（学舎）…中学校区を単位として、就学前施設、小学校、中学校で構成されるグループのこと。

【『せたがや架け橋プログラム』のロードマップ】

教育振興基本計画との整合を図りながら、幼保小で連携・協働して架け橋プログラムに取り組み、令和10年度末までに各学び舎において、小学校と窓口園との協力により、「架け橋期のカリキュラム」を作成・実践し、幼保小の連携・協働を基本に架け橋期の取組みの充実を目指します。



2 学びと育ちをつなぐ・つながる

そもそも架け橋プログラムって何？
5歳児から小学校１年生の2年間を「架け橋期」として、その時期の教育・保育を充実させて、学びと育ちをつなげていくことを目指しているんだ！

(1)「せたがや架け橋プログラム」のねらい

○子どもたちの学びと育ちをつなぐ

幼保小が協働して架け橋プログラムに取り組むことは、子どもたちが安心感や自信をもち、主体的に学びに向かう姿を支えます。また、幼保小が互いの教育や保育を理解し、それぞれの実践を充実させていくことで、非認知能力や資質・能力の育成につながり、子どもたちの学びと育ちをより豊かなものにします。

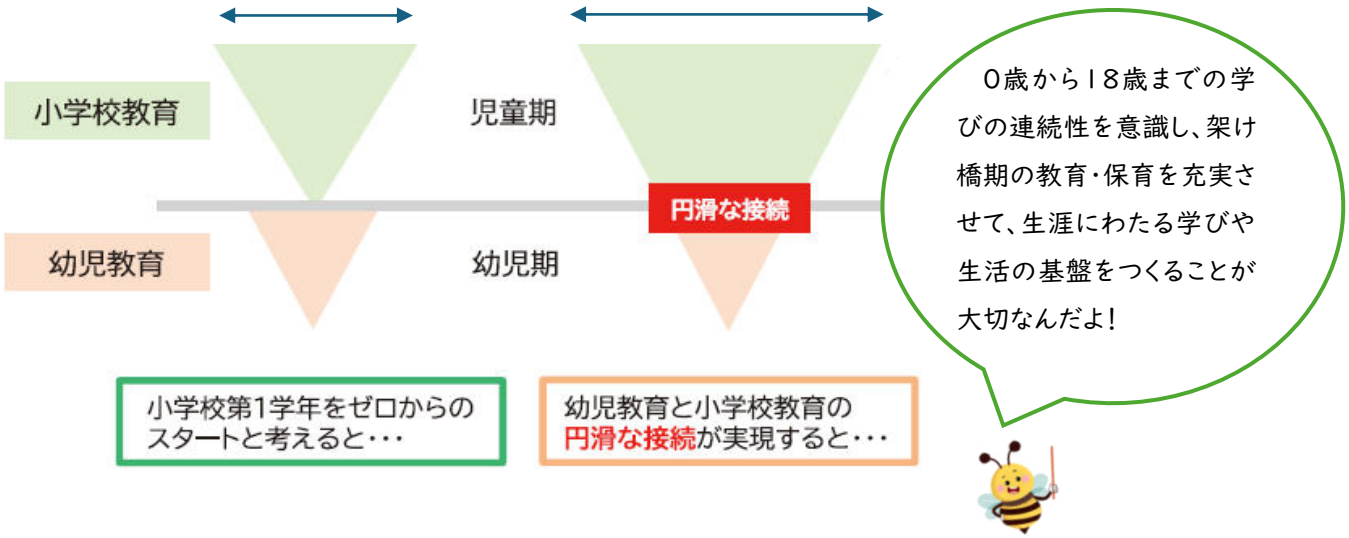
○子どもに関わる大人が立場を越えて自分事として連携・協働

学び舎を活用しながら、幼保小が施設類型の違いを越えて連携・協働し、「架け橋期のカリキュラム」を作成・実践し、保育・教育の充実・改善を推進します。また、家庭、地域、関係団体、教育・保育行政も含めた様々な関係機関との連携・協働も重要です。

○全ての子どものウェルビーイングを保障するカリキュラムの実現

家庭や地域の状況に関わらず、全ての子どもが格差なく質の高い学びへと接続できるよう、架け橋期の教育の質を保障します。また、子どもを権利の主体とし、多様性に配慮するなど、一人一人の子どもに対する理解を基盤とした教育・保育内容の充実を図ることが大切です。

１年生はゼロからのスタートではない！



(2)幼児教育と小学校教育の関係

同じところも、違うところもあって…
だからこそ話し合うことが大切だね！

幼児教育と小学校教育は、様々な違いがあるように見えますが、子どもの学びと育ちは連続しています。

幼児教育と小学校教育の特徴とは?

幼児教育と小学校教育の特徴を、教育課程等や教育方法などの面から見てみましょう。

幼児教育(幼稚園・保育所・認定こども園等)		小学校教育	
教育の目標	「感じる」「気付く」「考える」「工夫する」「興味をもつ」「関わる」等の経験を重視	教育の目標	「～できるようになる」「分かるようになる」等の目標への到達度を重視
教育の方法等	遊びを通した総合的な指導	教育の方法等	各教科等の目標・内容に沿って選択された教材による授業
幼稚園教育要領等	5つの領域からなる「ねらい」と「内容」(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	小学校学習指導要領	各教科等における目標及び内容

幼児教育	【共通】幼児教育と小学校教育	小学校教育
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育成する	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)※円滑な接続の手掛かりとして使用	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて、教育活動を実施する

教育課程等	一人一人の資質・能力を育んでいくよう、教育内容等を組織的かつ計画的に編成
教育方法	「主体的・対話的で深い学び」の実現

参考:文部科学省 幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと

(3)『せたがや架け橋プログラム』と世田谷版アプローチ・スタートカリキュラムの関係

世田谷版アプローチカリキュラムは、5歳児の2学期以降の時期を対象とし、小学校以降の学びや生活に主体的に取り組んでいく力を身に付け、期待や希望をもって就学できるよう各時期のねらいと活動を示しています。

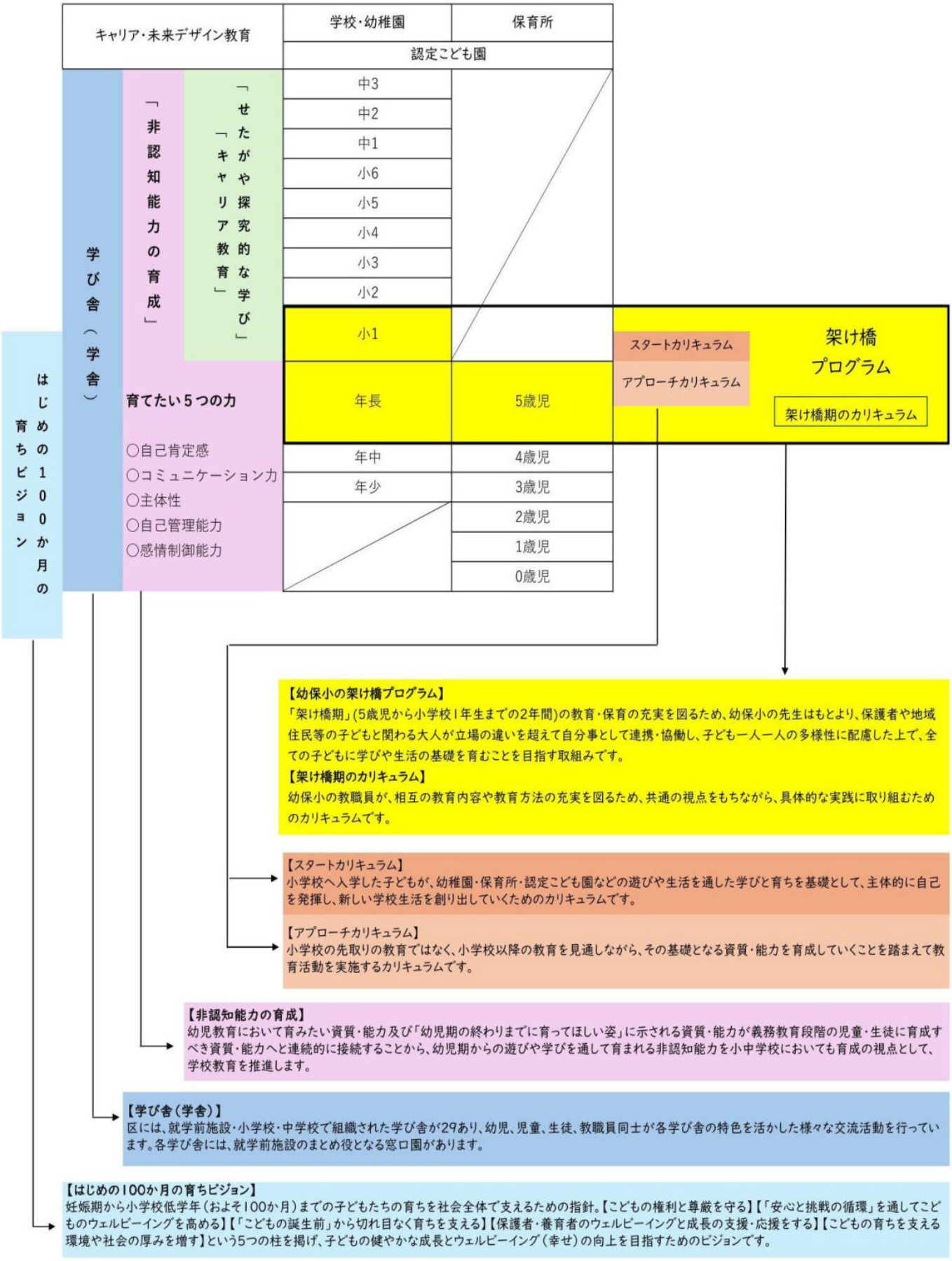
スタートカリキュラムは、小学校入学当初に実施され、安心して学習に取り組める環境を整えたり、幼児期の遊びや生活を通した学びを基礎として、子どもが主体的に自己を発揮していくために意識すべきことを示しています。

これらに対しせたがや架け橋プログラムでは、学びと育ちの連続性をより意識し、幼保小が協働して2年間の架け橋期のカリキュラムを作成・実践し、教育・保育内容を充実させていくことを目指しています。引き続きアプローチ・スタートカリキュラム等で書かれた具体的な内容を活用しながら、架け橋プログラムに取り組み、互いの教育の質の向上を目指していくことが大切です。

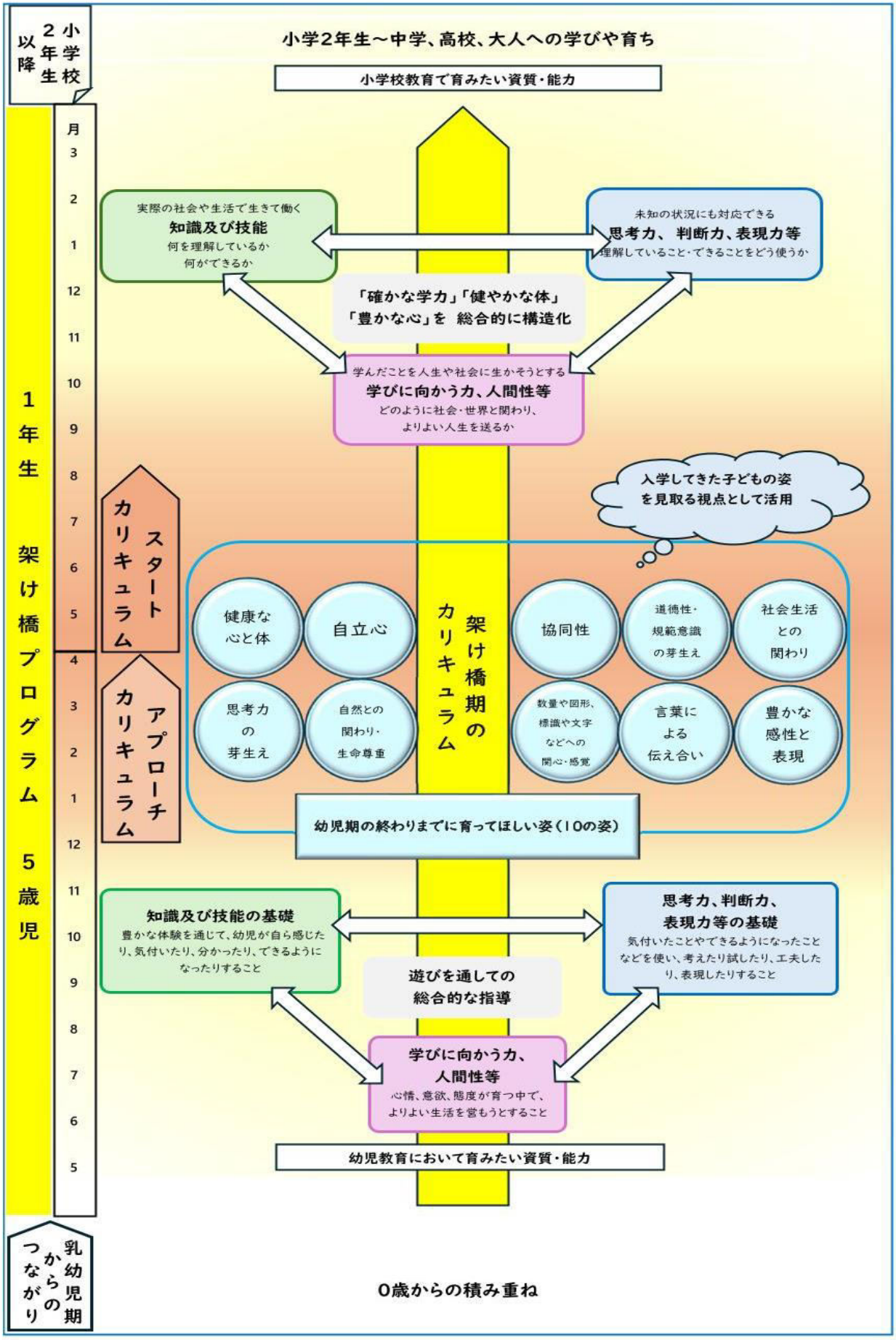
世田谷版
アプローチ・スタートカリキュラム

スタートカリキュラム
スタートブック文部科学省

≪せたがや架け橋プログラムの位置づけ≫



《学びと育ちのつながりのイメージ》



コラム「地域みんなで“こどもまんなか”につなぐ・つながる」

架け橋プログラムを推進するためには、幼保小はもちろんのこと、家庭や地域の理解と協力も必要です。家庭、地域、行政、就学前施設や小学校等が「こどもをまんなか」につながり合って、共に子どもたちの学びや育ちを支えましょう。

※参考：こども家庭庁「こどもまんなかアクション」

就学前施設や小学校の取組みを発信することは、保護者の不安の軽減にもつながります。「できないことが増えた」と捉えるのではなく、「育ちの途中であること」を共有し、生活の見通しを一緒に立てたり、これまで大切にしてきた関わり方を急に変えないようにしながら、ともに子どもの育ちを支えていきましょう。

また、小学校入学前から学童クラブを利用する子どももいます。体験利用や交流活動、就学前施設・学校・学童クラブの間での情報共有（疲れやすさ、不安、生活リズムなど）など、さまざまな連携が考えられます。

「こどもをまんなか」に、地域みんなでつながり合い、「遊び・休息・安心して過ごせる時間」「ゆったりできる居場所」「丁寧なケアや見守り」など、一人ひとりに応じた切れ目のない支援を実現していきましょう。

メモ

気づいたこと・感じたこと・大切にしたいことなど、自由に書き留めてみましょう。

解説

第2章　学び舎での連携・協働

Ⅰ 世田谷区の特色

最新の学び舎一覧はこちらから！

(1)学び舎と窓口園

区には、就学前施設・小学校・中学校で組織された学び舎が29あり、各学び舎の特色を生かしながら、子ども同士や教職員同士が様々な交流活動を行っています。各学び舎には、幼保小連携を進める際の窓口となる「窓口園」がありますので、活動を進める際にはご連絡ください。

【窓口園への相談例】

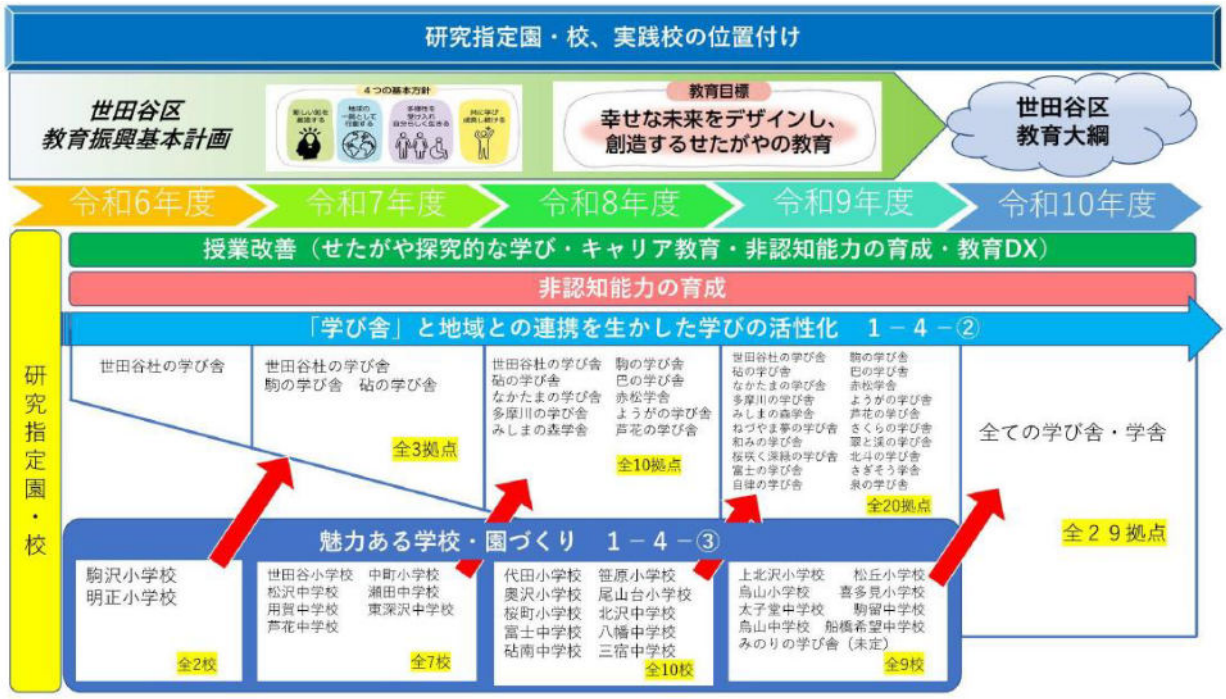
・学び舎の日等を活用した幼保小関係のきっかけづくり　・就学前施設への交流活動や授業案内等
・園だより、学校だよりの送付　・園・学校公開期間の相互参観　・入学前の小学校訪問の相談など

【学び舎における交流事例】
(令和6年度に窓口園を対象としたアンケート調査より)

①教職員・保育士による意見交換
・就学前施設の教職員・保育士が小学校の公開授業に参加し、意見交換を実施
・学び舎内の分科会に分かれた協議会への参加
・「非認知能力の育成」をテーマに、有識者を招いての学び合いと意見交換の実施
②保育・授業公開、施設訪問、交流活動等
・小学校の学校公開、校内見学、運動会や学芸会等の行事の見学等
・近隣の就学前施設の園児同士の交流活動の実施

就学前施設と小学校がつながって、話し合える関係性を構築することが第一歩！

令和10年度までに、全ての学び舎・学舎で地域との連携を生かした学びの活性化を目指します。



【参考】学びと育ちのガイドブック（令和8年４月）P15～研究指定園・校、実践校の位置付け

(2)乳幼児教育支援センターとの連携

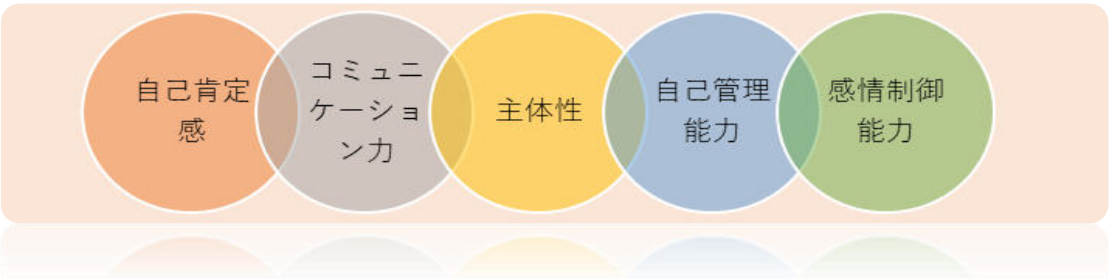
乳幼児教育支援センターでは、就学前施設が学び舎に参加・変更等をする際の手続きやサポートを行っているほか、幼保小の教職員による合同研修の実施、架け橋プログラム推進のためのモデル研究の推進、学び舎における取組み事例の情報発信等を行っています。

世田谷区乳幼児教育支援センターリーフレット

(3)非認知能力(社会情動的スキル)の育成

幼児教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、義務教育段階の児童・生徒に育成すべき資質・能力につながることから、令和7年度より、教育委員会では幼児期からの遊びや学びを通して育む非認知能力を、小学校・中学校においても育成の視点に学校教育を推進していけるよう研究指定園・校を定め、取り組んでいます。

OECD(経済協力開発機構)では、非認知能力に値する力を「社会情動的スキル」として3つの領域に分けていますが、区では学校教育における非認知能力の育成に係る視点として、以下を「育てたい5つの力」として整理しています。



2 学び舎で取り組む架け橋プログラムについて

区内には、多くの就学前施設があります。複数の就学前施設から小学校へ就学するケースも多く、連携先が多岐にわたるため、学び舎の仕組みを活用し、効果的に架け橋プログラムの取組みを進めていきましょう。

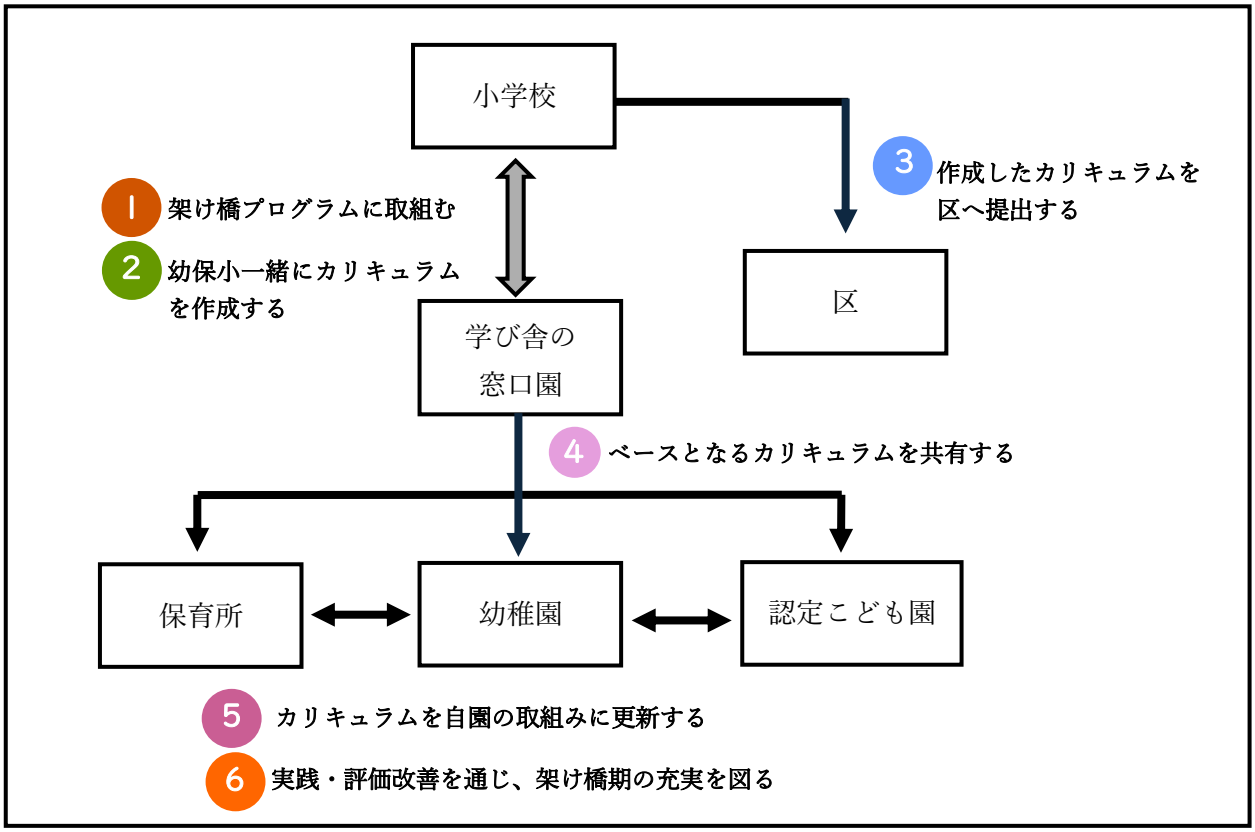
まずは、学び舎内で「育みたい子どもの姿」を、話し合ってみよう！

【学び舎での架け橋プログラムの取組み例】

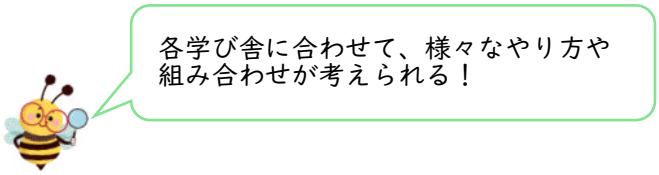
・カリキュラムの作成にあたっては、学び舎内で進めやすいよう連携・協働関係を相談して取り組んでいきましょう。
・カリキュラムは、教育課程の補助資料として各小学校ごとに区へ提出します。

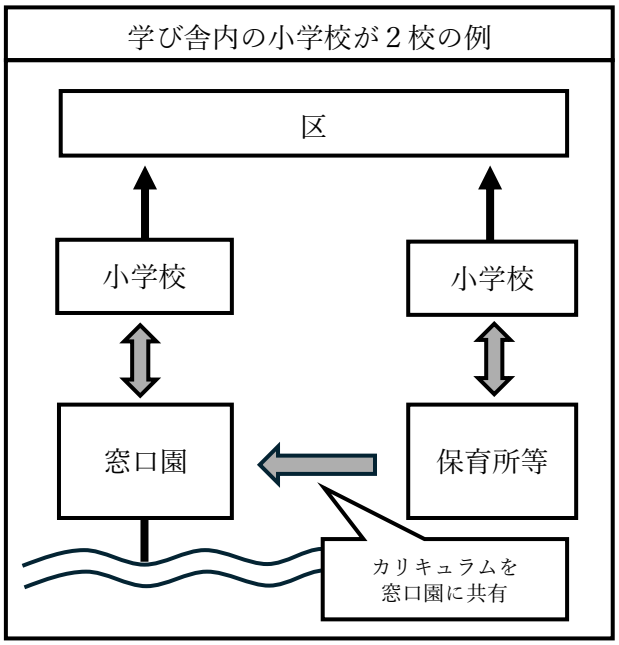
【学び舎で複数の施設が連携する例】

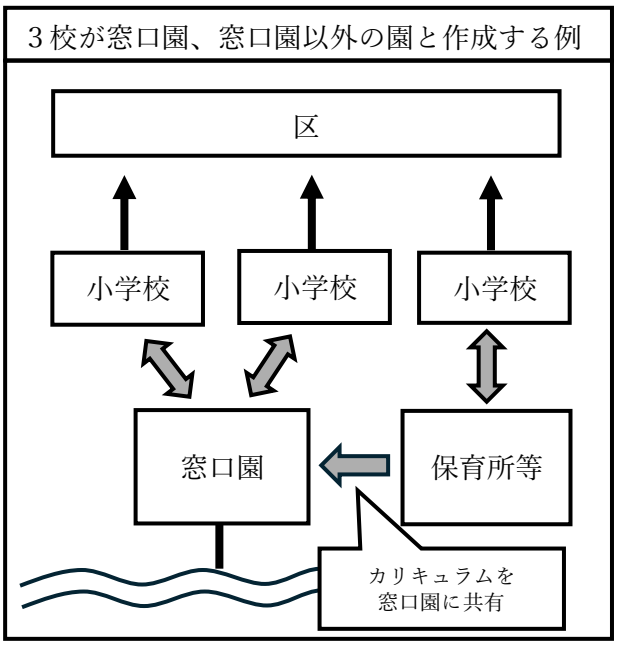
〇学び舎内の小学校が１校の場合



〇学び舎内の小学校が２校以上の場合







コラム「連携は身近な一歩から」

学び舎内には、たくさんの園があって…
どのように連携を進めていけばよいのでしょうか？

小学校教諭

まずは、これまで関わりのあった園や、身近な園との連携から始めてみてください。対話を重ねながら、カリキュラムを共に考えていきましょう。

区の担当者

でも、複数の園と連携するのは難しそうです…。

すべての園と一度に交流・連携する必要はありません。学び舎の窓口園なども活用しながら、少しずつ地域全体に広げていくようにしていきましょう。

メモ

気づいたこと・感じたこと・大切にしたいことなど、自由に書き留めてみましょう。

実践の手引き

第3章「子どもたちの姿から互いの教育・保育内容を話し合える」関係性の構築

Ⅰ 自園・自校の連携・接続の現状を確認しましょう！

チェックリストを活用しながら、自園・自校の現状把握や今後の連携・接続に向けた取組み内容を確認しましょう。

チェックリストは、体制づくりや教職員交流、教育・保育交流、架け橋期のカリキュラムの作成に向けた取組み、独自の取組みの4つのカテゴリーについて、ホップ（基盤づくり）、ステップ（連携・接続の実施）、ジャンプ（連携・接続の充実）の3段階に分類しています。

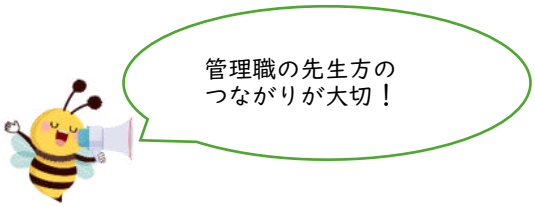
≪チェックリストの活用にあたって≫
① 現状把握と今後の参考として、活用してください。すべての項目を埋めることが目的ではありません。
② ホップ（基盤づくり）の項目から順に埋めていくものでもありません。取組みが進んでいる項目を確認し、現状を把握することで、次の連携・接続に向かうための手掛かりを得ることができます。
③ 独自の取組みについては、各学び舎の特色や環境、地域資源等を活用した取組みを記入しましょう。

【チェック項目一覧】

	ホップ（基盤づくり）	ステップ(連携・接続の実施)	ジャンプ(連携・接続の充実)
体制づくりや教職員交流	□**顔合わせ** 学び舎内の管理職や担当者の顔合わせをしている。	□**計画の作成** 幼保小の取組みに関する年間計画を作成している。	□**研修の企画** 架け橋プログラムに関する研修等を自園・自校・学び舎内で実施している。
	□**共有** 園だより・学校だより、年間行事予定を近隣の幼保小へ送付し、互いの取組みを共有している。	□**参加** 近隣の幼保小の行事に参加している。	□**意見交換** 架け橋プログラムの取組みについて、教職員・保育士同士による意見交換が行われている。
	□**研修への参加** 区が主催する幼保小の合同研修に参加している。	□**参観** 授業や保育を互いに参観している。	□**仕組みの構築** 連携・接続が持続的・発展的な取組みになるよう園・校内体制を構築している。
	□**交流** 学び舎の日などを活用して、幼保小の職員が交流する場を設定している。	□**情報共有** 入学前後の子どもの情報共有を行っている。	
教育・保育交流	□**参加** 幼保小の園行事、学校行事に幼児・児童が参加している。	□**振り返り** 交流活動の実施後、幼保小みんなで振り返りをしている。	□**今後の方向性の共有** 実践と振り返りを元に、改善や発展の方向性を共有している。
	□**交流** 幼児と児童の交流活動（学年不問）を実施している。	□**工夫** 互恵性のある交流活動に向けて、相互に工夫している。	□**仕組みの構築** 持続的に改善・発展できる仕組みを構築している。
架け橋期のカリキュラム作成に向けた取組み	□**基盤作り** アプローチ・スタートカリキュラムに取り組んでいる。	□**作成・実践** アプローチ・スタートカリキュラムを活用し、より学びのつながりを意識・工夫した架け橋期のカリキュラムを幼保小で協働して作成・実践している。	□**見直し** 振り返りを元に、架け橋期のカリキュラムの見直しを行っている。
	□**共有** 「育みたい子どもの姿」「架け橋期に育まれる姿」を共有している。 （P30～35 カリキュラムシート参照）	□**振り返り** 架け橋期のカリキュラムの実践後、「大人の実践」「子どもの姿」について、幼保小みんなで振り返りをしている。	□**サイクルの構築** 架け橋期のカリキュラムを見直し、改善・発展させていくサイクルが持続可能な形で構築されている。
独自の取組み	□ □	□ □	□ □

※P19～21の段階毎のポイントを参考に、架け橋プログラムを進めてみましょう！

2 架け橋プログラムを進めましょう！



（1）ホップ 基盤づくり

体制づくりや教職員交流

□**顔合わせ**　学び舎内の管理職や担当者の顔合わせをしている。
□**共有**　園だより・学校だより、年間行事予定を近隣の幼保小へ送付し、互いの取組みを共有している。
□**研修への参加**　区が主催する幼保小の合同研修に参加している。
□**交流**　学び舎の日などを活用して、幼保小の職員が交流する場を設定している。

（ポイント）

・園長・校長が中心となり、教職員・保育士同士の交流を図っていくことが、連携活動の第一歩です。各学び舎内にある窓口園を通じて、幼保小の連携担当者の決定や連絡先を共有しましょう。
・連絡窓口となる担当者（学び舎担当、幼保小連携担当、園務教務主任など）を決め、何ができるかを話し合う場を設定しましょう。まずはお互いの顔が分かるつながりを目指すことから始めましょう。
・自園・自校での取組みを知ってもらうため、園だより・学校だよりを近隣の就学前施設、小学校へ送付し、情報を共有しましょう。
・乳幼児教育支援センターでは、毎年、幼保小の合同研修を開催しています。幼保小の接続に関する講義や幼保小の教職員・保育士交流を行っていますので、ご参加ください。

教育・保育交流

□**参加**　幼保小の園行事、学校行事に幼児・児童が参加している。
□**交流**　幼児と児童の交流活動（学年不問）を実施している。

（ポイント）

・他園や学校の教育・保育を知る良い機会です。就学前施設、小学校で実施される行事・交流活動に参加できるように調整しましょう。

架け橋期のカリキュラムの作成に向けた取組み

□**基盤作り**　「アプローチ・スタートカリキュラム」に取り組んでいる。
□**共有**　「育みたい子どもの姿」「架け橋期に育まれる姿」を共有している。

（ポイント）

・就学前施設は、小学校以降の学びに対して見通しをもった教育・保育を行うほか、幼児が小学校生活や学習に主体的に取り組んでいける力を身に付け、入学への期待や希望をもてるようにアプローチカリキュラムに取り組みましょう。小学校は、入学後の1年生が安心感をもち、自己発揮できるようにスタートカリキュラムに取り組みましょう。
・学び舎内で子どもの実態や課題、学び舎や園・校の目指す子ども像などを参考に、思いや願いを出し合い、「育みたい子どもの姿」を共有しましょう。

(2) ステップ 連携・接続の実施

体制づくりや教職員交流

□計画の作成　幼保小の取組みに関する年間計画を作成している。
□参加　近隣の幼保小の行事に参加している。
□参観　授業や保育を互いに参観している。
□情報共有　入学前後の子どもの情報共有を行っている。

（ポイント）

・連携のための交流活動の年間計画を作成しましょう。年間計画では、幼児・児童の交流活動のほか、合同会議、研修等の日程を設定しましょう。
・就学前施設、小学校で実施される公開保育や授業、運動会、学芸会、入学式、卒業式等の行事に参加し、相互の取組みや施設を知りましょう。また、行事をきっかけに職員同士の交流も深めていきましょう。
・互いの授業や保育を「育みたい子どもの姿」を視点に参観するなどし、双方の良さや違いを理解することにつなげましょう。

教育・保育交流

□振り返り　交流活動の実施後、幼保小みんなで振り返りをしている。
□工夫　互恵性のある交流活動に向けて、相互に工夫している。（時期、参観時間、場所、方法等）

（ポイント）

・事前に交流の在り方について、窓口園を中心に幼保小で共に考え、相互のねらいを明確にした互恵性のある交流にしましょう。
・交流活動を実施するだけでなく、活動内容や進め方、また子どもの姿の視点を決め、同じ目線で振り返りを行うようにしましょう。

架け橋期のカリキュラムの作成に向けた取組み

□作成・実践　アプローチ・スタートカリキュラムを活用し、より学びのつながりを意識・工夫した架け橋期のカリキュラムを幼保小で協働して作成・実践している。
□振り返り　架け橋期のカリキュラムの実践後、「大人の実践」「子どもの姿」について、幼保小みんなで振り返りをしている。

（ポイント）

・これまで各園・各校で取組んできた、それぞれのアプローチ・スタートカリキュラムを活用しながら、より学びや育ちの連続性を意識し、子どもが自信をもって自立的、主体的に学習に取組めるような内容を工夫していきましょう。
・実践後の振り返りでは、「大人の実践」を振り返ると共に、「子どもの姿」の振り返りを幼保小の教職員が一緒に行うことが大切です。

(3)ジャンプ 連携・接続の充実

体制づくりや教職員交流

□研修の企画 架け橋プログラムに関する研修等を自園・自校・学び舎内で実施している。
□意見交換 架け橋プログラムの取組みについて、教職員・保育士同士による意見交換が行われている。
□仕組みの構築 連携・接続が持続的・発展的な取組みになるよう園・校内体制を構築している。

（ポイント）

・架け橋プログラムや幼保小接続に関する研修講師を招いて、園・校・学び舎内で研修等を開催しましょう。なお、研修形式ではなく、他の園・校の教職員・保育士を招いて他の取組みを知ったり、研修動画等を活用したりすることも有効です。
・架け橋プログラムは、5歳児や一年生の担当の教職員のみが実施するものではありません。育みたい子どもの姿を意識した教育・保育の実践に当たっては、他の学年の教職員の協力も欠かせません。様々な取組みについては、園内・校内の教職員・保育士と情報を共有しましょう。

教育・保育交流

□今後の方向性の共有 実践と振り返りを元に、改善や発展の方向性を共有している。
□仕組みの構築 持続的に改善・発展できる仕組みを構築している。

（ポイント）

・幼児と児童の双方の学びにつなげるために、交流後の意見交換では子どもの姿からその育ちや交流のもち方の意義や反省点を互いに見出す機会とし、改善と充実につなげましょう。

架け橋期のカリキュラムの作成に向けた取組み

□見直し 振り返りを元に、架け橋期のカリキュラムの見直しを行っている。
□サイクルの構築 架け橋期のカリキュラムを見直し、改善・発展させていくサイクルが持続可能な形で構築されている。

（ポイント）

・実際に取り組んだ架け橋期のカリキュラムを幼保小で共有しましょう。また、他の園・校での取組みや内容を踏まえ、必要に応じて、自園・自校のカリキュラムを改善しましょう。
・実践後に、見直し、改善・発展させていくサイクルが毎年行われるように、園・校内での仕組みを構築しましょう。

コラム「連携したい…でも時間がない」

本当にその通りだと思います。園も学校も、毎日子どもたちのために全力で動いていて、ゆっくり話し合う時間を確保するのは簡単ではありません。

だからこそお伝えしたいのは、連携は大きな会議から始めなくて大丈夫です。まずは、できるところから。“小さな一歩”からで十分なのです。

区内で実際に行われている“無理のない連携”の例

★教育時間・保育時間の流れを共有して、“可能な時間帯だけ”で参観を行う

園と学校が、あらかじめ一日の流れを伝え合うだけで、「この時間なら参観できそうだね」と、無理のない訪問ができます。長時間の訪問でなくても、短い時間で子どもの姿を見られるだけで、お互いの理解がぐっと深まります。

★校内研・園内研に“少しだけ参加する”

研究会に少し顔を出すだけでも、「こんな視点で子どもを見ているんだ」と気付きが生まれます。

★交流活動の振り返りを、共通の視点で子どもの姿から語り合う

「今日の子どもたちは、こんな表情だったね」「この場面で、こんな関わりが生まれていたね」そんな語り合いが、次の活動をより良くしていきます。

★学び舎の日の活用

いくつかの部会に分かれて話し合うなかで、架け橋部会もあり、その中で情報交換や「育みたい子どもの姿」について話し合っています。

こうした取組みは、どれも大きな準備を必要としません。それでも、先生方からこんな声が聞こえてきます。

「話してみたら、意外と楽しかった」「園の先生の視点が新鮮だった」「子どもの姿を語り合う時間って、いいものですね」

そう感じられた瞬間、もうそれは“大きな一歩”なのです。

実践の手引き

第4章　架け橋期のカリキュラムの作成と活用方法について

Ⅰ 架け橋期のカリキュラムを作成してみましょう！

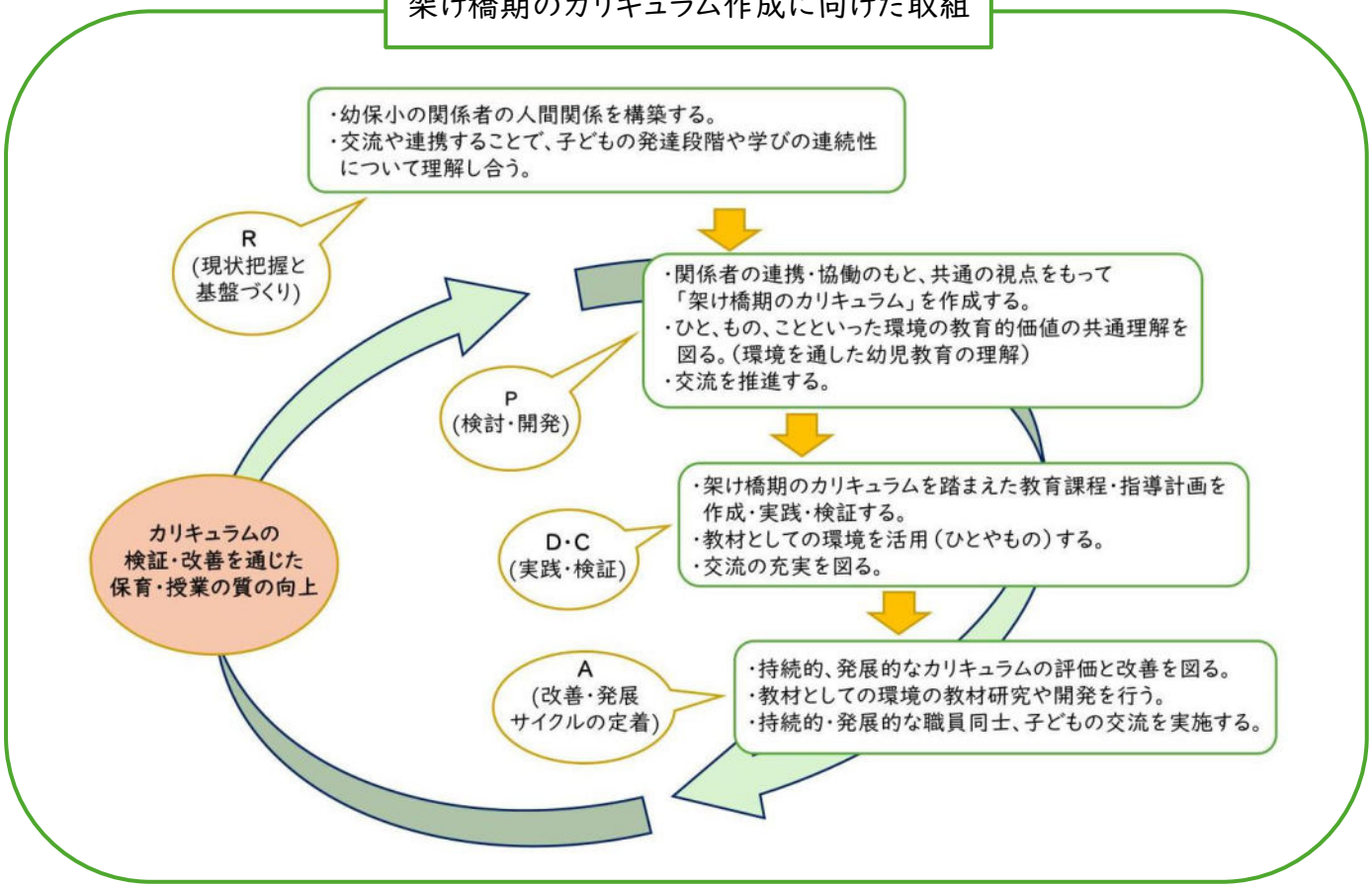
架け橋期のカリキュラム作成は、共通の視点をもって具体的な取組みを可視化していくことで、幼児期に培われた学びや育ちを小学校以降によりよくつないでいき、互いの教育・保育の質を高め、幼保小の接続を持続可能にするためのものです。

また、架け橋期のカリキュラムは、作成して終わりではありません。実践を記録し、子どもの姿を振り返る中で、育ちを捉えたり、育ちにつながる環境構成や大人の関わりを確認したりして、評価・改善していくことが大切です。カリキュラムは、毎年の振り返りを残しておき、2～3年程度で見直していくとよいでしょう。

架け橋期カリキュラムの作成手順　・・・・・・・・・・・・・・・　P30・31

架け橋期のカリキュラムにおける各項目について　・・・・・・・・　P32・33

架け橋期のカリキュラム作成に向けた取組



2 互いを理解するための3つのヒント

一人ひとりの子どもの学びや育ちを、活動の様子を通して話し合うことで共通理解を図っていきましょう。次の「3 つのヒント」の中から話しやすいものを選んだり、複数のヒントを組み合わせたりしながら、対話を進めてみてください。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿））

幼児期の生活や遊びの中で総合的に資質・能力が育まれていることが表れている具体的な姿として、3要領・指針（※）では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）が示されています。（P26～27参照）
幼保小で、子どもの育ちや学びを話し合う時の手掛かりとして活用してみてください。

※3要領・指針…幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

育みたい資質・能力

幼児教育と小学校以降の教育では、同じ3つの柱を育てることを目指しているという共通点があります。
幼児期に育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育では更にそれらを伸ばしていくことが大切です。
資質・能力は、乳幼児期から高等学校卒業まで一貫して、それぞれの発達段階に応じて育んでいきます。

幼児教育を土台にした非認知能力（社会情動的スキル）の育ち

幼児期に育まれた非認知能力が、小学校以降における学びに向かう力の基盤となります。幼児教育では、環境を通して行う教育としての0歳からの豊かな体験の積み重ねが大切とされています。幼児教育と小学校教育の切れ目のない接続により、学びと育ちをつないでいきましょう。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）は、到達目標ではありません。そのため達成を目指して指導するものではないことや、一人ひとりの発達の特性に応じて育っていくものであり、すべての子どもに同じように見られるものではないことなどに留意する必要があります。

健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで、達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考えや言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※幼稚園教育要領。保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領より抜粋

園で実際に見られる10の姿について、園庭での遊びを例に具体的に見てみよう！

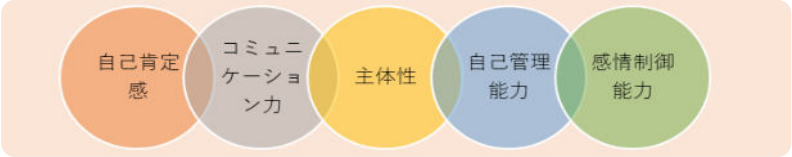
育みたい資質・能力（3つの柱）

幼児教育と小学校教育は、同じ３つの柱を育てることを目指しているという共通点があります。

幼児教育		小学校以上
遊びや生活の中で、豊かな経験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるか	→ 1 知識及び技能（の基礎）	→ 何を知っているか、何ができるか
遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使いながらどう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか	→ 2 思考力・判断力・表現力等（の基礎）	→ 知っていること・できることをどう使うか
心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか	→ 3 学びに向かう力、人間性等	→ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

幼児期において育みたい資質・能力は、個別に取り出して身に付けさせるものではなく、
遊びを通しての総合的な指導を行う中で、一体的に育んでいくことが重要です。

非認知能力（社会情動的スキル）



育みたい資質・能力「3つの柱」の中でも、特に「学びに向かう力・人間性等」の要素として位置づけられるのが「非認知能力（社会情動的スキル）」です。幼児期の非認知能力は、子どもが安心感を基盤に、「やってみたい！」と周囲の環境に主体的に関わる中で好奇心や探究心が高まり、結果として「やりきった」「集中できた」「友達とうまくかかわれた」といった形で現れます。子どもの姿に現れている育ちと学びをつないでいくことが大切です。

0歳から18歳まで、切れ目なく育まれていく非認知能力（社会情動的スキル）

コラム　幼児教育で大切にしている「環境を通して行う教育」って？

子どもたちは、入学前からさまざまな経験を重ねてきています。その育ちを理解する上で知っておきたいのが、幼児教育の基本的な考え方である「環境を通して行う教育」です。

遊びの中にある学び

幼児教育では、子どもたちが周囲の人や物、自然、出来事など身近な環境に主体的に関わりながら学んでいくことを大切にしています。ここでいう「環境」とは、園庭や保育室だけではありません。友達や保育者との関わり、遊具や絵本、虫や草花など自然との出会いなど、子どもを取り巻くすべてのものが学びの環境です。

例えば、園庭で虫を見付けた子どもたちが、「どうしてここに集まっているのだろう」と不思議に思い、観察を始めることがあります。また、積み木遊びでは、「もっと高くしたい」という思いから何度も試したり工夫したりする姿が見られます。このような夢中になって遊ぶ中で、つまり主体的に環境と関わる中で、子どもたちは気付き、考え、友達と相談したりしながら学びを深めていきます。

「教える人」ではなく「環境をつくる人」

では、そのような遊びを支える保育者はどのような役割を担っているのでしょうか。保育者は、子どもたち一人一人の姿を丁寧に見取りながら、「今、何に興味をもっているのか」「どのような経験が必要なのか」を考えています。そして、必要な教材を準備したり、友達との関わりをつないだり、ときには一緒に考えたりしながら、子どもたちの学びを支えています。「教える人」というよりも、子どもとともに「学びが生まれる環境をつくる人」といえるでしょう。

小学校へつながる育ち

就学前施設と小学校では教育の方法は異なりますが、その育ちは確かにつながっています。幼児期に育まれた好奇心や主体性、友達と関わる力、自分なりに考える力は、小学校での学習や生活を支える大切な基盤です。入学してくる子どもたちは、遊びや体験を通して学ぶ世界の中で育ってきています。その姿を幼保小で語り合うことが、架け橋プログラムの大きなねらいの１つです。

3 架け橋期のカリキュラムの作成手順

1

【「育みたい子どもの姿」を設定しましょう】

○子どもの日常の様子や互いの教育・保育について話し合い、互いの教育活動を参観したり語り合ったりすることで「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を理解し、子どもの姿や捉え方を共有しましょう。

○架け橋期を通して、どのような子どもを育みたいかについて話し合いましょう。子どもの実態やよさ、課題、学び舎（学舎）や園内・校内研究の目指す子ども像、区の教育施策、園・学校の教育・保育目標等を参考に、思いや願いを出し合いましょう。

○上記の内容について、思いついたことを短く付箋に書き、対話しましょう。キーワードを付箋で追加したり、直接書き込んだり、分類したりしながら大事にしたいことをまとめ、「育みたい子どもの姿」を設定するとよいでしょう。

3

【園で展開される活動・小学校の生活科を中心とした各教科の単元構想等、カリキュラムをデザインしましょう】

○ 園・学校が共通の視点を共通理解した上で、主な教育課程や予想される活動をデザインしてみましょう。
　子どもの姿を思いながら、どんな活動がどうつながっていくのかを表します。活動名や単元名、各教科とのつながり等、図なども使って分かりやすく可視化するといいでしょう。

○「架け橋期に育みたい子どもの姿」の実現に向けて、園の活動や遊びと小学校の活動や学習・活動内容のつながり、在り方を書くようにしましょう。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を踏まえ、幼児の発達や遊びの様子、児童の成長や学びの様子を理解した上で、カリキュラムをデザインしてみましょう。

4

【遊びや学びのプロセスを深めるた

○「育みたい子どもの姿」に迫るために、子どもの実
「交流」をするとよいのかを考えてみましょう。

【環境】 子どもたちの「やりたい」思いを実現し、子
単元構想や環境づくりを工夫しましょう。子どもたち
体的に思いを実現する経験を重ねられる環境（用具
視点の例：◇友達との関わり ◇試行錯誤や工夫できる場

【大人の関わり】 安心と自立を支える大人との信頼
もの達成感を友達や教師・保育者等と共有できるよ
う。
視点の例：◇一人一人の子どもと信頼関係を構築 ◇遊
画的な関わり方 ◇意識的な言葉かけ ◇見守りと必要な

【交流】園と学校で、教師と保育者あるいは子ども同
ましょう。その際、互いの教育・保育の負担になりすぎ

け橋期のカリキュラム】　　校・園名（　　）

小学1年生

2

【「育みたい子どもの姿」の実現に向けて、「架け橋期に育まれる姿」を書きましょう】

〇どのような視点で架け橋期に育まれる姿を捉えるかについて、話し合いましょう。
〇手引きでは例として、世田谷版アプローチ・スタートカリキュラムでも「大切にしたい柱」である「からだ」「こころ」「まなび」の3つの視点について、子どもの成長や具体的な姿から示しています。
〇架け橋期に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」「非認知能力」「3つの資質・能力」を踏まえて、資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿を書くようにしましょう。
※記述にあたっては、「参考資料　架け橋期に育みたい子どもの姿や配慮点」（P38～）を参照することも可能です。

〇期の分け方については、アプローチ期・スタート期として分けて例示（破線）しています。子どもの実態に応じて園・校で柔軟に対応しましょう。 例：2期、3 期　他

〇「育みたい子どもの姿」として適切か、一貫性・連続性はあるかについて話し合いましょう。

めの「環境」や「大人の関わり」「交流」を書きましょう　】

実態に即してどのような「環境」を整え、「大人の関わり」や

どもの学びや生活を豊かにする園の環境構成や、小学校の
が必要な材料や用具を選んで持って来たり探したりして、主
具・道具の配置、種類、数、素材等）について考えましょう。
場や物・時間　◇子どもが自らやりたいことができる環境づくりなど

頼関係を基盤に、子どもなりの発見を受け止めて共感し、子ど
ように関わり、一人一人の自信と意欲につなげるようにしましょ

遊びや学びのプロセスを深めるための大人の関わり方　◇意図的・計
な際の援助　◇教職員、家庭や地域との連携など

同士が交流・連携しながら実践する取組みを記載するようにし
ぎないような計画にする配慮をしましょう。

5

【実践を振り返り、次年度に生かせるようにしましょう】

〇「育みたい子どもの姿」への子どもの変容や成果・課題について、園・学校で共に振り返り、「子どもの姿の振り返り」に記述しましょう。

〇大人の実践や子どもへの働き掛けが、「育みたい子どもの姿」に適切であったかを振り返り、修正・改善を図るようにしましょう。

〇年度末には、来年度への引き継ぎや改善点について触れるといいでしょう。架け橋期の取組みについて、保護者や地域へ発信し、協力・協働的な教育活動へと広げていきましょう。

4 架け橋期のカリキュラムにおける各項目について

令和●年度　学び舎（学舎）〔 ●●● 〕　【架け

年齢・学年	5歳児
時期	4　5

① 育みたい子どもの姿

①架け橋期を通して、どのような子どもを育みたいかについて話し合い、「育みたい子ども
標、地域の願いなどを参考にしながら考えるとよいでしょう。
※同じ「学び舎（学舎）」に属する就学前施設と小学校で共通の【育みたい子どもの姿】と

② 架け橋期に育まれる姿

大切にしたい柱
- からだ（健やかな身体）
- こころ（豊かな人間性）
- まなび（豊かな知力）

②「育みたい子どもの姿」の 実現に向けての「架け橋期に育まれる姿」を書きましょう。架
・その際、「幼児期の終わりまでに育って ほしい姿（10の姿）」、「３つの資質・能力」、
※ここでは書式例として、「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム」でも「大切

幼稚園教育要領・保育所保育所指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」
- ○健康な心と体
- ○自立心
- ○協同性
- ○道徳と規範意識の芽生え
- ○社会生活との関わり
- ○思考力の芽生え
- ○自然との関わり・生命尊重
- ○数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚
- ○言葉による伝え合い
- ○豊かな感性と表現

※　記述にあたっては、幼保小の関連性・系統性を意識し、別紙の
Ｐ.３８～３９「架け橋期に育みたい子どもの姿や配慮点」を参照することも可能です。
※　カリキュラムシートの期の分け方や分ける時期については、子どもの実態に応じて、
園・学校で柔軟に対応しましょう。

③ 園で展開される活動・小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構想等

③架け橋期に「育みたい子どもの姿」の実現に向けて、園の活動と小学校の授業や
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を踏まえ、幼児の発達や遊びの様子
・架け橋期の発達の特性を踏まえ、幼児教育の基本を踏まえた遊びを中心とした総合的な
・園での子どもの学びと育ちを生かし、より充実した授業になるように心掛けましょう。
・「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム」等を参考に、指導の工夫をしましょう。
・次ページ記入例の小学校の生活科の単元構想では、各学期の大きな単元を太線で囲み、

④ 環境

④ 遊びや学びのプロセスを深めるための「環境」や「大人の関わり」について記
○環境：子どもたちの「やりたい」思いを実現し、子どもの学びや生活を豊かにする園の環
・友達との関わり
・試行錯誤や工夫できる場やもの・時間
・子どもが自らやりたいことができる環境づくり　など

④ 大人の関わり

○大人の関わり：安心と自立を支える大人との信頼関係を基盤に、子どもなりの発見を受け
・一人一人の子どもとの信頼関係の構築
・遊びや学びのプロセスを深めるための大人の関わり方
・意図的・計画的な関わり方
・意識的な言葉掛け
・一人一人の発達の特性や実情を考慮した見守りや必要な際の援助
・教職員、家庭や地域との連携　　など
※　記述にあたっては、園・学校との関連性・系統性を意識し、別紙の「参考資料　架け橋

⑤ 交流

⑤ 園と小学校の間で、保育者と教師あるいは子ども同士が交流・連携しながら実
しましょう。

⑥ 子どもの姿の振り返り

⑥「育みたい子どもの姿」を振り返り、どうなったか、どうなっているか、などについて考え、加筆・

⑦ 大人の実践の振り返り

⑦「大人の関わり」を振り返り、どうだったか、どうしたらよかったのか、などについて考え、加筆・

作成例は、
P.36～37を
ご覧ください！

テンプレートや作成例の
データこちらから！ ➡

 け橋期のカリキュラム】　　校・園名（　　）

小学１年生

の姿」を明らかにしましょう。区の教育施策、就学前施設・小学校の教育や保育目標、園内研や校内研の目指す子ども像、学び舎の教育目

するのがよいでしょう。

け橋期に、資質・能力が育まれている幼児・児童の具体的な姿を踏まえて記述するようにしましょう。
「非認知能力」等を参考に、視点を決めて話し合うのもよいでしょう。
にしたい柱」である〈からだ〉〈こころ〉〈まなび〉の３つの視点について、記載しています。

小学校学習指導要領

世田谷区
「非認知能力育成」5つの力

・自己肯定感
・コミュニケーション力
・主体性
・自己管理能力
・感情制御能力

３つの資質・能力

≪小学校以上≫
知識及び技能・思考力、判断力、表現力等・学びに向かう力、人間性等

≪幼児教育（環境を通して行う教育）≫
知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等

や活動内容のつながりや在り方を記載しましょう。
子、児童の成長や学びの様子を理解した上で、カリキュラムをデザインしましょう。
指導の中で行う園の活動と、小学校の生活科を中心とした授業や活動内容のつながり・在り方を示すようにしましょう。

。
単元名に◎を付けています。小学校で見やすく使いやすい形式に変えても構いませんので参考にしてください。

載します。
境の構成や、小学校の単元の工夫・環境づくりを行いましょう。

止めて共感し、子どもの達成感を友達や教師・保育者等と共有できるように関わり、一人一人の自信や意欲につなげましょう。

期に育みたい子どもの姿や配慮点」を参照ください。

践する取組みについて記載しましょう。その際、互いの教育の負担になりすぎないような計画にする配慮を

修正し、見直して、次期・来年度の計画に生かすための記述をしましょう。（学期ごとの振り返りや年間での振り返りをしましょう。）

修正し、見直して、次期・来年度の計画に生かすための記述をしましょう。（学期ごとの振り返りや年間での振り返りをしましょう。）

コラム「カリキュラム作成の最初の一歩は対話」

先生同士が対話を重ね、互いの違いや共通点に気付いていくことは、とても大切です。
特に「子どもの姿」を中心に語り合うことで、同じ方向を見ながら子どもの学びと育ちをつなぐカリキュラム作りへと発展していきます。

ここで、ある学校と園で、先生たちがカリュキュラムを作るために話し合っている様子を少しのぞいてみましょう。

小学校教諭

幼児期の終わりまでに育ってほしい「**１０の姿**」は、学校でいう到達目標のようなものですか。

幼稚園教諭

１０の姿は、小学校に行くまでに「できるようになるべき目標」ではなくて、生活や遊びの中で結果として現れる“子どもの姿”なんです。
「姿」を見ることで一人一人の学びと育ちのプロセスを見ようとしています。

「子どもの姿」、そのものを見るということですね。
学校では、到達目標に対する評価も大切にしていますが、
「**学びに向かう姿勢**」も大切にしています。

「学びに向かう姿勢」が、具体的にはどんな子どもの姿なのか、
それを話し合う時に「**１０の姿**」が手掛かりになるかもしれません。

メモ

気づいたこと・感じたこと・大切にしたいことなど、自由に書き留めてみましょう。

第5章　参考資料

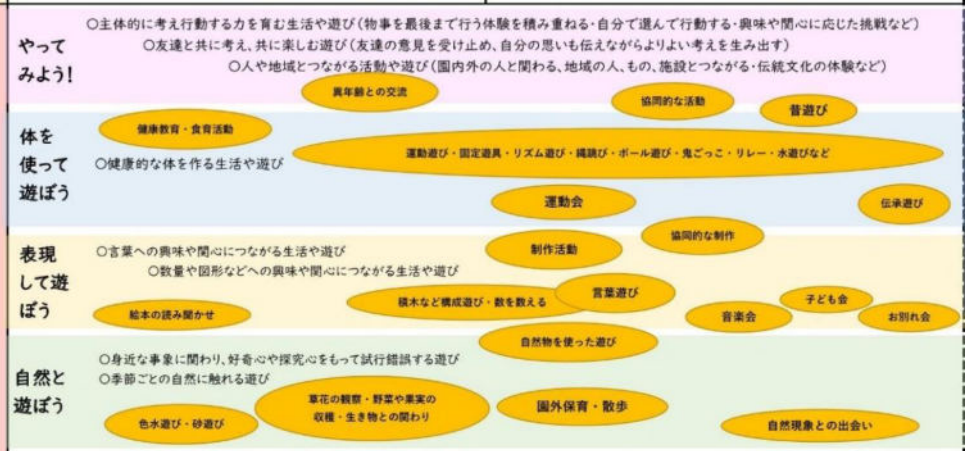
架け橋期のカリキュラム　作成例

令和●年度　　学び舎（学舎）〔 ●●●　 〕　　【架け

年齢・学年	5歳児											
時期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
育みたい子どもの姿	「安心して自											

架け橋期に育まれる姿（大切にしたい柱）		
からだ（健やかな身体）	・遊びや生活の中で、自分なりの目的をもって繰り返し試したり挑戦したりしようとする。	・充実感をもって、自分のやりたいことを実現していこうとする。 ・友達との遊びの中で、自分の力を出していくことを楽しむ。
こころ（豊かな人間性）	・安心して自分の気持ちや経験を表す。 ・友達に自分の思いや考えを言葉や動きで伝えたり、友達の考えを受け入れたりしようとする。	・友達と互いに考えを出し合ったり、折り合いをつけたりしながら遊びや活動に取り組む。 ・相手の状況や気持ちを考えながら、互いを認め合って遊ぼうとする。
まなび（豊かな知力）	・身近な環境に興味をもって関わり、繰り返しやってみようとする。 ・自分の思いや感じたり考えたりしたことを、様々に表現しようとする。	・身近な環境に主体的に関わり、友達の考えに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを感じたり、感じたことや考えたことを様々な方法で表現したりしようとする。

園で展開される活動・小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構想等



環境	・自分たちで生活を作り出し、安心して過ごせるように、場の使い方や物の配置など、幼児と共に考えたり整えたりする。 ・幼児の「こうしたい」というイメージや目的に合う素材や用具を選べるように、環境の構成を工夫する。 ・友達と共通のイメージをもち、考えを出し合ったり作ったりする活動や機会を設ける。 ・伝えたいことを共有できる時間の確保や、安心して伝えようとする雰囲気を作る。	・一人一人が目的をもって試したり工夫したり挑戦したりできるように、繰り返し取り組むための場と時間を保障する。 ・自分の思いを表したり、友達の考えに気付いたりできるように、自分や友達の頑張りやよさを伝え合う機会を設ける。 ・イメージやアイディアを実現できるように、多様な素材や用具に触れたり、選んだりできる環境を整えたり、機会を設けたりする。
大人の関わり	・幼児が楽しんでいることを一緒に楽しみ、共感することで、「またやりたい」「もっとこうしたい」という意欲につなげていく。 ・保育者も仲間に加わったりアイデアを提供したりするなど、互いの気持ちや考えを伝え合えるようにしていく。 ・自分の思いを表したり相手の思いを受け入れたりすることで遊びが楽しくなる経験を味わえるよう、自分の考えを表す姿を認めたり、相手の思いにも気付けるよう橋渡しをしたりしていく。	・友達と工夫しようとする姿や、自分たちの力で進めていこうとする姿を見守り、幼児が主体的に遊ぶことを通して、自己発揮をしたり、折り合いをつけたりして気持ちを調整する姿を認め、活動がより深まるようにする。 ・　自分の考えを話すこと、相手の話を最後まで聞くことなど、話し合いの仕方に気付けるようにしていく。 ・考えたり工夫したりして自分なりに表現している姿を認め、周囲の友達がそのよさに気付けるようにする。

交流	「はじめましての会（出会いの交流の場）」 管理職や担当者の顔合わせ・年間計画の確認 参観・意見交換会やアンケート等実施 （担当者間　学び舎の会）　学び舎の日①	「運動会の交流」「あきとあそぼう」 公開保育・授業 学び舎内合同研修会 幼保小接続推進研修参加　学び舎の日②	1年生の体験 交流の打ち合わせや振り返り 入学児の連絡会・要録等引継ぎ 学び舎の日③　次年度の計画
子どもの姿の振り返り	・友達と考えを伝え合おうとする姿がたくさん見られた。一緒に遊んだり活動していく楽しさを感じている。	・自分なりの見通しをもって、試したりしながら取り組もうとする姿があった。	・自信をもって自分の考えを言葉で言おうとしていた。
大人の実践の振り返り	・進級した嬉しさや、年長組として張り切る子どもたちの、「自分たちで」「やってみたい」気持ちを発揮できる遊びの環境構成、また活動内容となっていた。		・1年生との交流を通して、就学への期待感と安心感をもてた。

橋期のカリキュラム】　　校・園名（　　）

小学１年生											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

分の思いや考えを表せる子ども」

・就学前施設での経験を生かし、自分でできることは自分でしようとする。 ・時間割を含めた生活の流れを知り、生活や学習に必要なことに取り組もうとする。 ・休み時間などに他の児童と一緒に楽しく過ごす。	・生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組もうとする。 ・自分がやりたいことに向けて、先生や友達に聞きながら自分の力を発揮して、粘り強く取り組もうとする。
・様々な人・もの・ことと出会い、自分の思いを表現して関わり合う。 ・就学前施設で経験した遊びや新しい遊びに興味をもち、一緒に楽しむ。	・相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする。 ・友達と協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組む。
・新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味や関心をもつ。 ・数や文字、言葉等、学んだことを日常生活の中で活用しようとする。 ・自分の思いや考えを、言葉に表し、先生や友達と仲良くなろうとする。	・就学前施設での経験を生かして、自分で考えたり友達と協力したりしながら、小学校での学習に関心をもって主体的に取り組もうとする。 ・自分の気持ちや考えを、自信をもって様々な方法で表現する。

【あたらしいいちねんせい】
○わたし、できるよ（道・国）
○きょうはなにをしようかな（体・音・国・図）
○いろいろみつけた、あたらしいこと（道・国）

◎【なかよしいっぱいがっこうたんけん】
☆学校探検・友達や教職員との交流
○なかよしさがしにしゅっぱつだ（道）
○もっともっとしりたいな（図・国）

【なつだとびだそう】
○みんなであそぼう、なにしてあそぼう（国・道）
○なつをたのしもう（道）
○なつだいすき（道）
○あめのひたんけんたい（道・道・

【いきものとなかよし】
○どんないきものとなかよくなりたいかな（国・道）
○はじめまして、こんにちは（道・国）
○もっとなかよくなりたいな（道・国）
○ずっと大すき

◎【あきといっしょに】
○どんなあきが見つかるかな、どんなあそびができるかな（国・道）
○あきをたのしもう（道）
○さあ、なにしてあそぼう（道・図）
○たのしかったね、あきあそび（道）

【みんなのにこにこ大さくせん】
○いえの人がにこにこするときは、どんなとき（国）
○いえの人のにこにこを見つけたいな（道）
○はじめよう、にこにこ大さくせん（道）
○にこにこがいっぱい（道）

◎【もうすぐみんな２年生】
○１ねんかん、どんなことがあったかな
○おもいでいっぱい、1年生（国）
○あたらしい１年生をしょうたいしよう（道・図・音・国）
○大きくなったね、わたしたち（図・道）
○たのしみだね、２年生

【さかせたいな　わたしのはな】
○すきな はなはなあに（道・国）○なにをそだてようかな（道・国）　○さあ、たねをまこう（道・国）
○おおきくなあれ　○はながさいたよ（図・国・道）　○わたしのはながさいたよ（道・国・算）
○たねができたよ（道・国・算）　○ありがとう、わたしのはな（道）

【ふゆとともだち】
○まい日さむいね、ふゆはなにしてあそぼうか（国・道）
○ふゆをたのしもう（道）
○たのしかったね、はる なつ あき ふゆ（道）

・具体的に動作で示したり、児童が体験したりして、初めてのことも安心してできる場を作る。 ・スタートカリキュラムでは、モジュールにし、就学前施設の時間や内容（手遊び歌、読み聞かせ、リトミック、製作等）に近付けるようにする。 ・異学年交流し、学校全体として迎えられている気持ちを養ったり、安心できる人間関係を作ったりできるようにする。	・既習体験を確認し、準備するものを考慮する。 ・試行錯誤のある活動を設定し、工夫したり、作り変えたりして自分の思いや願いに近付けられる環境を作る。 （振り返りを受け、追記） ・活動を繰り返し行い、意図的に見付けたり、比べたりできるような環境を作る。 ・自分がやりたいことが選べるようにし、主体的に学べる環境を作る。
・就学前施設での学びを聞き取り、小学校での指導に生かす。 ・イラストや絵、写真、動画等を使いながら、簡潔に説明したり、指示したりして、視覚的にも分かりやすくする。 ・「やりたい」気持ちをよく聞き取り、実現できるようにしていく。また、児童の興味・関心を引き出せるような導入の工夫をする。	・活動時間を見通し、十分に確保し、児童が安心して活動できるようにする。 ・学習面や生活面で個別に児童を見取る。それに合わせ、指導や課題を追加したり、支援したりしていく。 ・支援が必要な児童に個別に関わり、教員間でその情報を共有し、どの教師でも同じ指導ができるようにする。

「はじめましての会（出会いの交流の場）」 管理職や担当者の顔合わせ・年間計画の確認 参観・意見交換会やアンケート等実施 （担当者間 学び舎の会）　学び舎日①	「運動会の交流」「学芸会や展覧会の実施」「あきとあそぼう」 公開保育・授業 学び舎内合同研修会 幼保小接続推進研修参加　学び舎の日②	生活科「もうすぐ2年生」 交流の打ち合わせや振り返り 入学児の連絡会・要録等引継ぎ 学び舎の日③　次年度の計画
・様々な活動に積極的に取り組もうとする姿が多い。 ・中には少し不安そうにしている姿も見られた。	・自分の学習に意欲的に取り組むだけでなく、友達と教え合ったり、一緒に考えたりする姿が見られた。	・進級を楽しみにし、自信をもって行動する姿が多く見られた。
・もう少し一人一人のペースに合わせた活動の展開ができる授業や活動を工夫していきたい。	・１つの教科や単元での経験や気付きや他の活動でも活かせるような工夫をしたことで、自信をもって、楽しそうに取り組む姿が見られた。	学習の振り返りや、幼児との交流活動で自分の成長を実感できた。

＊必要に応じてカリキュラム作成の際に参考にしてください。

「架け橋期に育みたい子ど

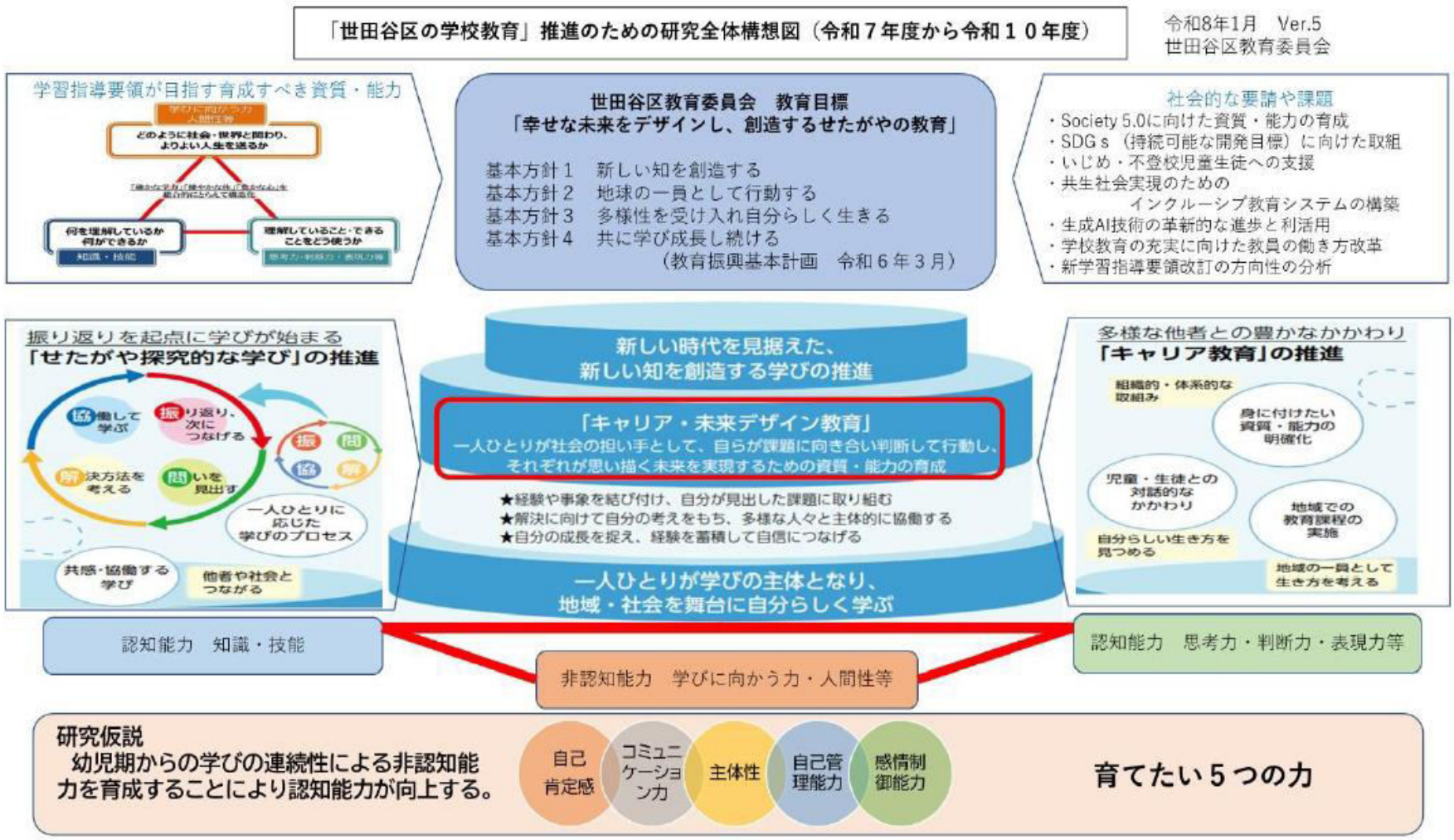
幼児期に育まれた資質・能力を踏まえた教育活動 幼児期からの学びの連続性による非認知能力の育成				自己肯定感　コミュニケーション
年齢 学年	5歳児			
時期	4　5　6　7　8	9　10　11　12	1　2　3	
この時期に見られる子どもの姿 大切にしたい柱	・健康な生活のリズムや生活の仕方を、身に付けるようになる。 ・自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いや考えを聞いたりして、友達とのつながりを感じながら遊びを進めるようになる。 ・自分の目的や学級の共通の目的に向けて、自分なりに力を出したり、友達と一緒に進めたりする楽しさを味わえるようになる。		・遊びや生活に見通しをもち、必要なことに気付いて自分から動いたり友達と一緒に進めたりするようになる。 ・遊びや活動の中で、友達と思いや考えを伝え合いながら協力して遊ぶようになる。 ・これまでの活動や経験を通して達成感や自信をもち、意欲的に活動するようになる。	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
（健やかな体） からだ	・園生活や、1日の生活の流れが分かって動く。 ・すすんで体を動かし、多様な動きを楽しむ。 ・所持品の始末、着替え、手洗いなどやり方が分かって行う。 ・遊具や用具の使い方が分かり、安全に気を付けて遊ぶ。 ・食べ物への興味・関心をもって、すすんで食べようとする。	・園生活や1日の見通しをもち、時間を意識し、自分たちで生活を進めようとする。 ・集団での遊びや競い合う遊びを楽しむ。 ・生活に必要な準備や始末が分かり、すすんで行う。 ・危険なものや場所・遊び方が分かり、状況を考えて遊ぼうとする。 ・食事に関するマナーや食への関心をもち、楽しく食べる。	・活動の区切りや時間を意識し、できることをすすんで行ったり、友達と声を掛け合ったりしながら、生活を進めようとする。 ・少し難しいことにも、自分なりに繰り返し挑戦しようとする。 ・生活や遊びに見通しをもち、使うものをすすんで準備したり、整えたり片付けたりする。 ・安全に気を付けたり、緊急時の適切な行動が分かったりして行動する。 ・手洗いうがい、好き嫌いを減らすなど、体を大切にする活動をすすんで行う。	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性と規範意範の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
（豊かな人間性） こころ	・友達と思いや考えを伝え合いながら遊ぶ。 ・身近な大人や友達に自分からあいさつする。 ・友達との遊びや生活の中で、して良いことや悪いことがあることに気付く。 ・自分より年下の子と関わり、思いやりや親しみの気持ちをもつ。	・自分とは異なる友達の思いや考えを受け入れようとする。 ・友達と話し合いながら役割分担したり、協力したりして活動を進める。 ・自分からすすんであいさつをしたり、お礼の気持ちを伝えたりする。 ・友達と一緒に心地よく生活するためのきまりやルールを守ろうとする。	・友達と互いのよさを認め合いながら共通の目的に取り組み、達成感や充実感を味わう。 ・相手の状況や気持ちを考えながら、自分で考えて行動する。 ・地域の方や小学生など、自分の生活に関係の深い人に親しみや関心をもつ。 ・自分や友達の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。	
（豊かな知力） まなび	・自分なりの目的をもって遊びに取り組む。 ・身近な自然に触れ、気付いたり不思議さを感じたりする。 ・遊びや生活に使う簡単な文字や数量に興味をもつ。 ・絵本や物語に親しみ、イメージを豊かにする。 ・感じたこと、考えたことを様々な方法で表現しようとする。	・自分の目的の実現に向けて、繰り返し試したり、工夫したりする。 ・身近な自然に興味・関心をもって関わり、美しさや不思議さを感じたり、遊びに生かしたりする。 ・数量や図形、文字などを遊びに取り入れる。 ・友達とイメージや目的を共有し、思いや考えを表し合いながら遊ぶ。	・試したり考えたりしながらじっくりと取り組み、充実感を味わう。 ・身近な自然や季節の変化に気付き、興味をもって調べたり試したりする。 ・日常生活に必要な数量・図形、標識や文字に関心をもち使う。 ・絵本や物語の世界を楽しみ、イメージを膨らませ、動きや言葉などで表現することを楽しむ。	
環境構成	・新しい遊具や用具を自分たちのものとして、また、安全に使えるように、幼児と一緒に生活の場を作ったり共通に理解する機会を設けたりする。 ・見通しをもって遊びや生活が進められるよう、一日の予定や計画を絵表示など視覚物で分かりやすく示す。 ・いろいろな友達と関わったり、ルールのある遊びを楽しんだりする活動を意図的に取り入れ、遊び方やルールを友達と相談しながら遊ぶ楽しさが感じられるようにする。 ・幼児の「こうしたい」というイメージや目的に合う素材や用具を選べるように整え、自分たちで探して遊びに取り入れられるよう、手に取りやすく配置する。 ・自然物や自然現象の時期を逃さず、興味がもてるよう表示物を掲示したり、遊びに取り入れられる遊具や用具を準備したりしておく。 ・関心をもったときにすぐに見たり調べたりできるよう、絵本や図鑑を身近な場所に置く。		・園の行事に個やグループ、学級で取り組み、見通しや期待をもって友達と一緒に進めていくことができるよう、予定や昨年の様子を知らせたり、話し合いの機会を作ったりする。 ・友達と共通のイメージや目的をもち、考えを出し合ったりつくりあげていったりする活動や機会を設ける。 ・自分のイメージや共通のイメージがより実現できるような素材や用具を、遊びの進み具合に応じて適宜提示していく。 ・興味をもって試したり工夫したりできる材料や用具を用意し、十分に取り組める場と時間を保障する。 ・文字や数に触れたり、その面白さを感じたりできるよう、実態に合わせて知的な関心がもてる教材を提示する。 ・園生活で楽しかったことやできるようになったことを振り返り、自分の成長を感じたり、互いに成長を認め合ったりする場をつくる。	
大人の関わり	・進級時の嬉しさや不安など、様々な気持ちを受け止めながら、安心して自分を出せるようにする。 ・進級時は、新しい場の使い方や物の配置、安全な行動についてなど、幼児と共に考えることで、自分たちで生活をつくり出していく意識をもてるようにする。 ・幼児が楽しんでいることを大人も一緒に楽しみ、楽しさに共感することで、「また、やりたい」「もっとこうしたい」という意欲につなげていく。 ・幼児が自分の思いを言葉で伝えようとする中で、大人が言葉を付け加えたり言い換えたりしながら補足し、周囲に伝わりやすくなるよう援助する。 ・自分の思いを表したり相手の思いや考えを受け入れたりすることで遊びが楽しくなる経験を味わえるよう、自分の考えを表す姿を認め、相手の思いに気付けるよう援助する。 ・機会を逃さず、身近な自然に気付いたり、発見したりできるよう、大人自身も一緒に自然に関わりながら気付いたことを言葉に出したり、幼児と共感したりしていく。		・自分たちで考えて遊びや生活を進めていこうとする姿を認め、自信につなげる。 ・友達との関わりを通して、自分の気持ちを調整したり、折り合いをつけたりできるよう、解決を急がず見守ったり仲介したりする。 ・学級やグループの活動の中で、友達と気持ちを合わせて取り組む姿に共感し、友達とやり遂げる楽しさや満足感を味わえるようにする。 ・活動後に振り返りの機会を作り、「もっとこうしたい」という意欲につなげ、幼児同士の認め合いや励まし合いを促す。 ・友達と共通の目的をもって取り組む場面では、話し合う内容を明確にし、一人一人が自分の考えを話すこと、相手の話を最後まで聞くことなど、話し合いの仕方を伝えていく。 ・考えたり工夫したりして自分なりに表現している姿を言葉にして認め、周囲の友達がそのよさや頑張りに気付けるようにする。 ・文字や数、量の概念を身近に感じられるように、遊びや活動、生活の中に取り入れていく。 ・自分たちの成長を感じ、身近な人たちに感謝の気持ちがもてるよう声を掛ける。 ・一人一人の幼児の就学への期待や不安を受け止め、一緒に楽しみにしたり緊張を和らげる声掛けをしたりする。	

もの姿や配慮点」　（＊幼稚園・保育所・認定こども園は、以下「就学前施設」という。）

カ　主体性　自己管理能力　感情制御能力	
小学１年生	
4　5	6　7　8　9　10　11　12　1　2　3
・園での生活を思い出したり、教師の話を聞いたりしながら、自分でできることに取り組むようになる。 ・生活や体験的な学習の中で、自分の考えを友達に伝えたり、友達と一緒に活動したりすることを楽しめるようになる。 ・１年生になった喜びを感じながら、意欲的に生活や学習を進めるようになる。	・自分のやりたいことを選んだり、自分のできることを見付けたりして楽しく活動するようになる。 ・生活や学習の中で、自分が考えていること、気付いたこと、学んだことを周囲に伝える。 ・生活リズムの中で見通しをもち、生活や学習を進めるようになる。
・楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。 ・時間割を含めた生活の流れを知り、生活や学習に必要な準備や始末、整理整頓に自分で取り組もうとする。 ・休み時間などに友達と一緒に楽しく過ごす。 ・就学前施設での経験を生かして、自分でできることは自分でしようと、積極的に取り組もうとする。 ・様々な当番活動の仕方を知り、やってみようとする。 ・食べ物に興味・関心をもちながら、みんなで楽しく給食を食べる。	・学級や学年が自分の居場所となり、安心して過ごす。 ・生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて、意欲的に取り組もうとする。 ・休み時間に友達と一緒に元気よく遊んだり、好きな場所で自分のやりたいことをしたりして、安心して過ごす。 ・自分がやりたいことに向けて、教師や友達に聞きながら自分の力を発揮して、粘り強く取り組もうとする。 ・場や物の利用の仕方やマナーなどについて、考えたり行動したりする。 ・給食や当番活動など、自分でできることに自信をもち、意欲的に取り組む。
・あいさつや自己紹介をし、先生や友達と仲良くなろうとする。 ・就学前施設で経験した遊びや新しい遊びに興味をもち、一緒に楽しむ。 ・友達と協力して、学習や活動する楽しさを味わう。 ・学校生活に関わる様々な人に、興味や親しみの気持ちをもつ。 ・身近な植物や生き物に対して興味や関心をもち、自分で育てたい植物を選び、育てようとする。 ・学校の生活の仕方やきまりを知り、安心して自分で取り組もうとする。	・相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする。 ・友達と協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組む。 ・地域の行事や様々な文化に触れることで興味や関心を深め、地域への親しみや学びの場を広げる。 ・自らすすんで気持ちのよいあいさつをしたり、お礼の気持ちを伝えたりする。 ・自分自身の成長に気付き、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとする。
・新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味や関心をもつ。 ・身近な自然を観察したり、使って遊んだりする活動を通して、自然の面白さや不思議さに気付く。 ・数や文字、言葉など、学んだことを日常生活の中で活用しようとする。 ・自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて、言葉を選んで伝えようとする。	・就学前施設での経験を生かして、小学校の学習に関心をもって主体的に取り組み、実感を伴った理解をする。 ・自分で選び、自分なりの方法を試したり、友達の方法から新たなやり方を考えたりして学ぶことを楽しむ。 ・自然の事物や現象について関心をもち、その理解を確かなものにしていく。 ・感性を働かせ、音楽や造形、身体等で思いついたことを自由に表現することを楽しむ。 ・自分の気持ちや考えを、自信をもって様々な方法で表現する。 （言葉、絵、写真、動画、動作等）
・具体的に動作で示したり、児童が体験したりして、初めてのことも安心してできる場を作る。 ・スタートカリキュラムでは柔軟な時間割を工夫し、就学前施設の時間や内容（手遊び、読み聞かせ、リトミック、製作等）など、これまでの経験をもとに安心して過ごせるようにする。 ・物の置き場などは固定の場所を決め、毎日の生活に見通しをもち、自分から活動できるようにする。 ・実際の物を使って、操作を行ったり模擬体験をしたりできるようにする。（給食の配膳、算数のおはじき、ブロック操作等） ・異学年交流を通し、学校全体として１年生が迎えられている雰囲気を感じたり、安心できる人間関係を作ったりする。 ・当番表を掲示し、自分の当番活動が分かりやすいようにし、主体的な活動につなげる。	・就学前施設での遊びや既習体験を確認し、準備するものを考慮する。 ・気付きを価値付けし、友達と共有できる環境を作る。 ・気付いたことや見付けたことを振り返り、可視化できるような環境を作る。 ・字を大きく書いたり、字間や色分けをしたりして、黒板の字が読みやすくなるようにする。 ・時間や生活の流れに見通しがもてるよう、掲示や視覚的に訴える板書を工夫し、主体的な行動につながるようにする。 ・活動を繰り返し行い、意図的に見付けたり、比べたりできるようにする。 ・自分がやりたいことが選べるようにし、主体的に学べる環境を作る。 ・試行錯誤のある活動を設定し、工夫したり、作り変えたりして自分の思いや願いに近付けられる環境や機会を作る。 ・学んだことを掲示し、学びが振り返られるようにする。 ・児童の発表したことを板書したり、絵や図、動きをモニターで見せたりして、児童が共有しやすくする。
・児童と一緒に活動を楽しんだり、就学前施設での学びを聞き取ったりして児童の内面理解に努め、よさや可能性を引き出す指導に生かす。 ・イラストや絵、写真、動画等を使いながら、簡潔に説明したり、指示したりして、視覚的に分かりやすくする。 ・「やりたい」という気持ちをよく聞き取り、温かく見守り、実現できるようにしていく。また、児童の興味・関心を引き出せるような導入の工夫をする。 ・学校生活におけるルールは、必要な場面を取り上げて考える場を設け、一緒に決められるようにする。 ・教科・領域のねらいや目標と、学びに向かう児童の姿を踏まえ、児童に学習への思いや願いを伝える。 ・日常的なコミュニケーションや指導・支援を図り、児童との信頼関係を築くとともに、個に応じた児童の経験と学習の充実につなげる。（学級通信、ホームページ、保護者会等） ・初めて体験することでは不安が少なくなるよう、確認したり、安心できるような声掛けをしたりする。	・児童の目線で話を聞き、「やりたい」という気持ちを生かした授業を行えるようにしていく。また、活動後の振り返りを生かし、考えを共有したり、次につなげられたりできるようにする。 ・児童の興味・関心を引き出す導入の工夫をし、探究的な学びにつなげる。 ・活動時間を見通して十分に確保し、児童が安心して活動できるようにする。 ・友達関係の様子を見て、子ども同士をつなぐ支援をする。 ・児童の気持ちに寄り添い、児童がやりたかったことを聞き、共感して生かす。 ・できたことを称賛し、児童ができた喜びや自信を感じ、「もっとやりたい」と思えるようにする。やる気を引き出し、自己肯定感につなげていく。 ・個々の児童の興味・関心に応じた取捨選択の場を確保し、個別最適な指導の充実を図る。 ・学習面や生活面で、個別に児童を見取る。それに合わせ、指導や課題を追加したり、支援したりしていく。 ・みんなで決めた又は確認した学級のきまりは、教室内に掲示し、きまりの振り返りを中心に指導する。 ・教科において大切なことや基礎的な内容は、その旨もしっかり伝え、児童の「なぜ」に応える指導をする。 ・支援が必要な児童に個別に関わり、教職員間でその情報を共有し、どの教職員でも同じ対応ができるようにする。 ・個別に指導の仕方を変え、児童が話を受け入れやすい環境を作る。児童の内面理解に役立て、保護者と共通理解を図るなど、今後の指導・支援につなげていく。

「世田谷区の学校教育」推進のための研究全体構想図

世田谷区教育振興基本計画の教育目標の達成に向けて、
多角的に取り組んでいるんだね!



「学びと育ちのガイドブック」より

非認知能力（社会情動的スキル）の５つの視点と具体手的な項目

研究仮説
幼児期からの学びの連続性による非認知能力を育成することにより認知能力が向上する。

自己肯定感 / コミュニケーション力 / 主体性 / 自己管理能力 / 感情制御能力

育てたい５つの力

各教科・領域等　教育活動全般での実践

自己肯定感

- 自尊意識
- 自己に存在の肯定
- 他者との比較による自信
- 他者からの評価による自信
- 学習への自信
- 経験に基づく自信

国士舘大学との連携による非認知能力育成の研究（研究指定校・園）

コミュニケーション力

他者の考えの理解（受信・理解）
- 他者情報の読み取り
- 傾聴力

自己の考えの表現（発信）
- 効果的な説明
- 感情や気持ちの伝達
- 考えや意思の伝達
- 要求の伝達
- 誤解の修正
- 自己調整による伝達

教科「日本語」における演劇的手法を用いたコミュニケーション力育成の実践

世田谷パブリックシアターによる出前授業

主体性

- 新しいことへの意欲
- 向上心
- やり遂げる意欲
- 目標達成への意欲
- 自己の考えや意思
- 自己の行動に対する意思
- 主張する姿勢
- 行動の自発性
- 周囲とのかかわりに対する姿勢
- 問題に対処する姿勢
- 自立心

STEAM教育講座の学校での実施

区内企業との連携による「キャリア教育プラットフォーム」の実践

自己管理能力

メタ認知
- 自己分析
- 自己認知
- 認知している事柄の認知

認知のコントロール
- 思考の転換
- 柔軟な思考
- 集中力
- 注意力
- 持続力

行動のコントロール
- 身の回りの管理
- 対応可能な行動
- ルール・マナーの順守
- 欲求におけるコントロール
- 義務におけるコントロール
- 困難におけるコントロール
- 判断におけるコントロール
- 対人行動のコントロール

感情制御能力

感情のコントロール
- 感情の抑制
- 感情の制御
- 感情の統制
- ストレスマネジメント

東大先端研との共催による「LEARN in SETAGAYA」の実施

OECDでは非認知能力に値する力を「社会情動的スキル（Social and Emotional Skills）」と呼んでいる。

「学びと育ちのガイドブック」より

コラム「子どものウェルビーイングを実現する教育・保育」

子どもの権利の保障と子どもが心身ともに満たされ、自分らしく生き生きと成長することのできるウェルビーイングの実現が大切です。

子どもに関わる全ての大人は、一人ひとりの子どもが何に興味を持ち、何を学ぼうとしているのかを知ろうとする、また子どもの声を聴き、身近な大人との対話の中での安心感を基に、非認知能力（社会情動的スキル）を育んでいく視点をもちましょう。　　※P13非認知能力(社会情動的スキル)の育成

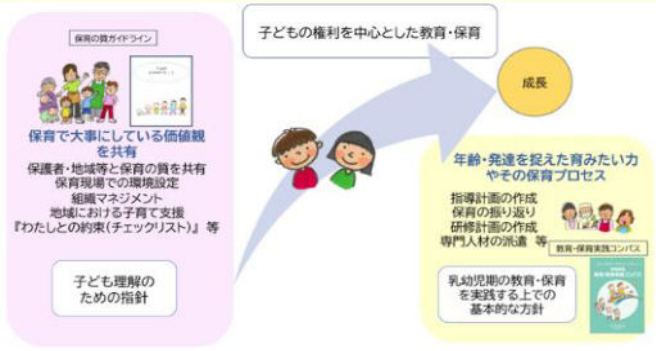
【世田谷区子どもの権利条例】

子どもの権利が当たり前に保障され、子ども自身が子どもの権利を実感できる文化と地域社会をつくり出し、発展させ、継承していくことを目指しています。

世田谷区子どもの権利条例（全文）

みんなが持っている権利

【世田谷区教育・保育実践コンパス・世田谷区保育の質ガイドライン】



世田谷区教育・保育実践コンパス

世田谷区保育の質ガイドライン

【せたがやインクルーシブ教育ガイドライン】

～子どもの主体的な成長を促す教育をしていますか？共に学び、共に育つ教育をめざして～

せたがやインクルーシブ教育ガイドライン

第6章　事例集

第 6 章では、モデル研究園・校「園、校における架け橋期の教育の充実」（令和 6・7 年度）の取組み及び世田谷区内の就学前施設、小学校、学び舎の実践事例をまとめました。

就学前施設で日々大切にしている遊びの中に学びの芽生えが育まれていることや、遊びを通して育まれる小学校以降の教育とのつながり、教職員と子どもとの関わりや環境の構成の工夫、架け橋期の指導・援助のポイント、架け橋期のカリキュラムの作成等を示しています。

それぞれの教育・保育・学び舎の実情に合わせてご活用ください。

令和6・7年度　モデル研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P44～47

実践事例集　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P48～55

※本冊子に掲載されている実践事例以外にも、様々な取組みを区のホームページに掲載し、ご紹介していますので、ぜひご覧ください。（随時更新）

令和6･7年度　モデル研究

【砧の学び舎】世田谷区立砧小学校　世田谷区立砧幼稚園

「園・校における架け橋期の教育の充実」

～架け橋期のカリキュラムの作成を通して～

講師　武蔵野大学　箕輪　潤子氏

〈昨年度からの取組みの状況と課題〉

・研究の１年目として、年間を通して１年生の担任と幼稚園の教員とで見学や話し合いを積み重ね、学び合いや連携の体制づくりに取り掛かった。

・２年目として、持続可能な連携にするため、教育計画に位置付けを行っていく。架け橋期の子どもの育ちの連続性を大切にしたカリキュラムを作成する。また、育みたい姿をもとにした園・校での活動や教科での実践の工夫を整理することで、活用しやすいカリキュラムをめざす。

〈砧幼稚園・砧小学校の架け橋期のカリキュラム作成の全体像〉

幼稚園と小学校での教育の相互理解

・新年度当初の様子の見学
・学び舎・地域公開日の参観
・研究保育・研究授業や協議会への参加
・写真等を用いた日々の様子の情報交換
・運動会等の行事の参観

カリキュラムの内容検討

保育・授業実践と振り返り

園・校において互いに得た学びをそれぞれの教育計画に活かし、実践する

（例）　幼稚園　小学校
シャボン玉遊び⇔なつとあそぼう
秋の自然物での遊び⇔あきとともだち

〈カリキュラムの内容について話し合う〉

興味のあることや好きなことを活かして経験を積んでいってほしいと思っています。

【めざす子ども像を設定】
園・校の子どもの実態を出し合い、見えてきたよさや課題から、幼小でどんな子どもを育てていきたいかを共通理解する。**共通のめざす子ども像をもつことで同じ方向を向くことができた。**

友達と認め合い、自信をもつ子を育みたいですね。

幼稚園の先生

小学校の先生

「こころ」には思いの表出や友達との関わりを記入してみました。

【５つの期ごとに育みたい子どもの姿を出し合う】
３つの柱（からだ・こころ・まなび）ごとに具体的な姿を出していく。**育てていきたい力をイメージしやすく、育ちの連続性が見えてきた。**

育みたい子どもの姿を考える中で、「安心」という捉えも園と学校ではイメージしている姿が違いますね。

生活の中での育みたい子どもの姿を書き起こすことはあまりないですが、やってみると理解の深まりや新たな発見があります。

幼稚園では興味に応じて自分で選ぶ「遊び」と、皆が経験する「活動」を工夫して複合的な育ちにつながるよう指導をしています。

【幼稚園の遊びと活動、小学校の授業の共有】
経験や学びが園と学校でどのようにつながっているかを考えた。
また、以下のことが分かった。
幼稚園では経験させたいことを計画的に踏まえ、幼児の興味・関心に基づいた遊びや活動の中で幼児が自ら学べるよう援助している。
⇕
小学校では教科のねらいに即して、児童が課題を立てそれぞれのやり方で解決していき、資質能力を高めるよう指導している。

幼稚園での「遊び」と「活動」の違いは何でしょうか？

4月に1年生を見学した際、見通しのもてる分かりやすい表示がとても有効だと感じました！

【環境や大人との関わり、振り返りの欄の作成】
互いの見学を基に気付きの共有をした。その際、指導方法や内容に違いが見られたが、**「育みたい姿」にどうつながるかを視点とすることで、大切にしている点が見えてきた。**

環境の工夫に幼小のつながりが見えるよう記載してみましょう。

【カリキュラムを活用していく】
互いの実践や見学で見られた姿がどのようにして育まれているのか、その姿がどのようにつながっていくのか、作成したカリキュラムを話し合いに活用していった。

★カリキュラム作成中や授業・保育見学の振り返りの中での一コマ★

(小) 小学校では、すべての授業にねらいがあり、課題を立て、解決のためにそれぞれのやり方で学習します。幼稚園の主体性重視の考えが、小学生になっても活かされています。

(小) 協同製作楽しそうに作っていましたね。大きなメリーゴーランドはびっくりしました。どんな風に作ったんですか。

(幼) 園児のやりたいことを取り上げて主体的に取り組めるようにしました。

(幼) 幼稚園では「幼児が主体的に関われるか」を大切にしています。運動会のように年間で位置付けている活動も、幼児の実態を踏まえて自発的に取り組める導き方を試行錯誤しています。

(小) 園児が考えたことを実現していけるような環境や手立てがあり、年少児、保護者、未就園児との関わる機会が設定されていていいなと思いました。小学校でも図工だけでなく、生活科や国語等でも合科的に取り組んでいきたいです。

➡カリキュラム作成がゴールではなく、カリキュラムを活用しながら育ちを読み取り、指導に活かしていく。その際に生まれる疑問や違和感から幼稚園と小学校の違いを共通理解し、それぞれのよさを大切にしながらブラッシュアップしていけるとよい！

〈**実践事例**〉１年生生活科「あきとともだち」
幼稚園から小学校へ自然物への興味、遊びや活動に取り入れて楽しむ経験をつなぐ

幼稚園で秋探しをし、園児のためにおもちゃを作りたいと思いが生まれる

園児に楽しく遊んでもらいたいという気持ちをもって工夫して作る

園におもちゃが届き、園児は手紙を読みながら遊ぶ

秋を身近に感じ、多様な触れ方や楽しみ方ができる環境の工夫が大切！

相手意識をもつことで、児童の主体的な姿が育まれた。一緒に遊ぶなど、相手が目の前にいるとより相互の思いが伝わりそう！

〈成果と今後に向けて〉

- **カリキュラムを作成しながら、教員同士が互いの見学後に意見を交換したり、保育・授業づくりのための情報共有をしたりすることで、互いの教育についてより知ることや活かし合うことができた。また、振り返り時にカリキュラムの中の子どもの姿を思い起こすことで、学びのつながりを見出しやすくなった。**
- **見えてきた幼稚園と小学校の違いは、時として架け橋期の学びをつなぐ難しさに感じられたが、互いの教育への理解を深め合う視点となった。また、違いがあることを踏まえた上で互いの良さを尊重し合い、取り入れることで保育・授業の改善が見られた。**
- **年間を通しての教育活動を振り返りながら、来年度に向けて４月のカリキュラムに計画的に反映させていく。今後の架け橋期の取組みとして、設定された交流の活動でなくても、主体的に関わり合える子ども同士のつながりが生まれるような連携の充実を学校・園全体でめざしていく。**

令和6･7年度　モデル研究

【みどりの学び舎】
世田谷区立八幡山小学校　世田谷区立八幡山幼稚園　世田谷区立松沢保育園

「園・校における架け橋期の教育の充実」
～子ども同士の関わりの中で生き生きとできる子ども～

講師　武蔵野大学　箕輪　潤子氏

【研究概要】

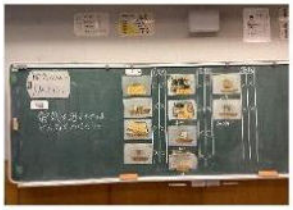
本区のテーマ「園・校における架け橋期の教育の充実」を受け、本校・園では研究主題を以下のように設定した。

「子ども同士の関わりの中で生き生きとできる子ども」

令和６年度は研究副主題を「異校種間における交流活動を通して」とし、交流活動の再構築を重点的に取り組んだ。

令和７年度は研究副主題を「環境構成を備えた授業づくりを通して」とした。就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続のための意図的・計画的な交流活動の推進を図るとともに、小学校では幼児教育の「子どもの主体的な活動を大切にし、適切な環境の構成を行う」という考え方を取り上げ、幼児教育における環境構成を小学校教育にも生かす授業づくりをめざした。

（生き生き）　（環境構成）　（授業づくり）



自らすすんで人・もの・ことに関わり、より多くのことを学ぼうとする姿	子どもが発達に必要な体験を積んでいくことができるような状況をつくり出すこと	子どもが「わかった」「できた」という達成感を得られる学習活動のこと

【研究方法】

①意図的・計画的な交流活動の実施

幼稚園・保育園５歳児	⇔	小学１年生児童
幼稚園・保育園５歳児	⇔	小学２年生児童
幼稚園・保育園５歳児	⇔	小学５年生児童
幼稚園・保育園４歳児	⇔	小学４年生児童
保育園３歳児	⇔	小学３年生児童

幼稚園及び保育園の５歳児と小学１年生が就学前に関わることにより、小学校段階で１・２年生となり、より円滑な教育活動ができる。また、小学校段階で１年生と６年生の関係を就学前に構築できるようにすることで、小学校に対する子どもの安心感を高めることができる。交流に際しては、事前に打合せや指導案検討の場を、事後には振り返りの場を３つの校・園が合同で設け、充実した内容となるようにした。

②授業研究（年８回）の設定＊＿＿＿幼稚園及び保育園と連携・交流した授業

5月	6月	9月	10月	10月	11月	12月	1月
５歳児	６年生	２年生	３年生	５年生	４年生	４歳児	１年生

子どもが見方・考え方を生かしながら環境構成に配慮された授業を受ける中で、主体性を発揮することができたかを捉えるために、幼稚園で２回及び小学校で６回の授業研究に取り組んだ。その際、研究主題に迫るための手立てとして、「学習活動の工夫」「物的環境の工夫」「空間的環境の工夫」「教師の役割」の視点を設けた。

【実践例】第２学年　生活科　「レッツ！ひらめきこうじょう」

①本時のねらい

動くおもちゃづくりを通して、材料やつくり方を試行錯誤しながら、友達や５歳児と楽しく遊ぶ。

②授業の工夫

CMづくり

よく動くおもちゃづくりのためのひらめきや工夫を、分かりやすく伝えるために、要点をCMにまとめて事前に５歳児に届けた。５歳児はCMを見たことで、本時で何をするか明確になり、期待をもつことができた。

十分な素材の確保

子どもたちがイメージするつくりたいものを、思い描いた通りに具現化できる環境を整えた。材料は十分な量を用意し、それぞれ表示を付けて分類した。割り箸や輪ゴムなどは長さや太さを分けて複数の種類を用意することで、試行錯誤しやすいようにした。

5歳児に伝え、一緒に考える時間の設定

展開の３５分間は、「つくる→試す→改善する」の流れを意識しながら、動くおもちゃを５歳児とともにつくる時間とした。これまで積み上げてきたおもちゃづくりの気付きやひらめきを、５歳児に伝えることで、自分の思いを伝え合う良さに気付けるようにした。

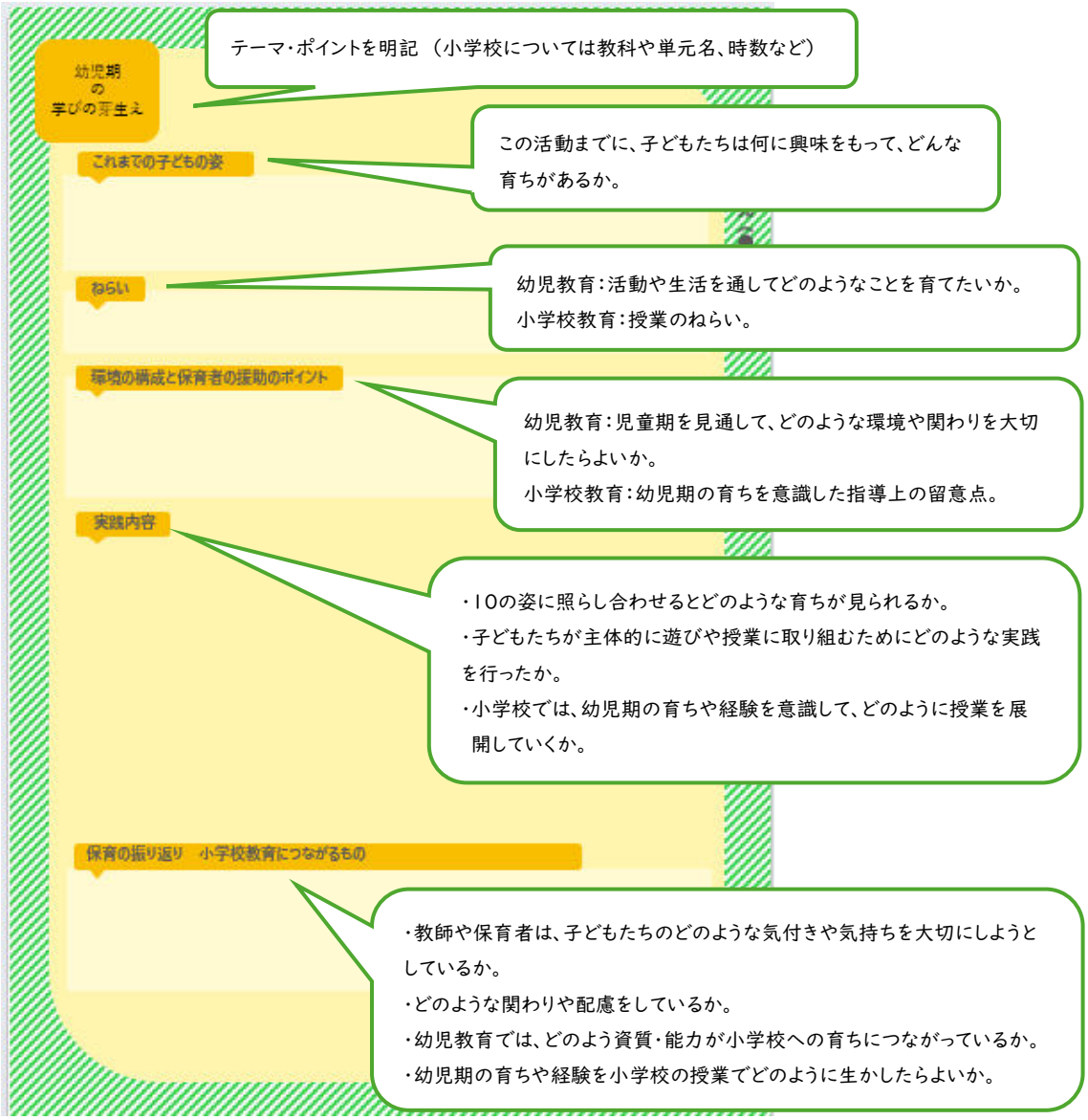
③５歳児にとって

2年生が5歳児の思いに寄り添ってくれたことで、5歳児はイメージしたおもちゃをつくり遊ぶ満足感を味わうことができた。

【講師からの指導講評】
・教師が授業の展開の中で、場を広げたり、コースを工夫したりと環境を再構成する場面があった。
・「場」「人」「もの」「時間」の４つの観点から環境が構成されていた。「時間」に関しては、児童の学習としての時間の流れと、５歳児の遊びの経験としての時間の流れの差異をどう埋めるかが課題である。

実践事例集の見方（各項目について）

※各実践事例の内容に合わせた項目で記述しています。



※本冊子に掲載されている実践事例以外にも、区のホームページに掲載し、ご紹介していますので、ご覧ください。（随時更新）

幼児期の学びの芽生え		つながりのある保育・授業	
職員の交流・大人同士の取組み		子ども同士の交流活動	
就学に向けて保護者の安心感へのアプローチ		0歳児からの育ちをつなぐ	

実践事例　　自立の学び舎　RISSHO KID’S きらり岡本保育園

幼児期の学びの芽生え

自分のやりたいことに向かって試行錯誤しながら取り組む
～本物の金魚すくいをしてみたい～

5歳児（7月）

これまでの子どもの姿

例年の園行事として行っている『夏祭り』を楽しみにしていた。一人一人がやりたいことを考え、意見を出し合いながら夏祭りに取り組めるようにし、4つのグループに分かれてお店を出すことに決まった。

『金魚すくい』グループではリアルなお店を目指し、子どもの「本物の生き物をすくえるようにしたい」という思いから、近隣の川で生き物を捕まえる計画をした。しかし、捕まえたメダカが弱る様子から、「本物を使うことがいいのか」という疑問が生まれ、葛藤する姿が見られた。

ねらい

・季節の行事に関心をもちながら、友達と一緒にイメージを膨らませて遊ぶ楽しさを味わう。
・思いや考えを伝えたり聞いたりして、試行錯誤しながら進めていこうとする。

環境の構成と保育者の援助のポイント

・夏祭りに必要な素材や道具を、子どもが自由に手に取ったり選んだりしやすい場所に置く。
・興味や関心が広がったり、見通しをもったり、内容を共有したりできるように写真や文字で可視化する。
・子どものつぶやきや提案を受け止め、保育者も仲間に加わったり、内容を整理したり、アイデアを提供したりするなどして、互いのイメージや考えを伝え合えるようにする。
・子どもがやりたいことに取り組めるように、豊かな発想や主体的に取り組む気持ちを大切にする。
・試したり、考えたり、工夫したりしている姿を認め、共感して十分に満足できる時間の配慮をする。

実践内容

本物の生き物を捕まえたい！

生き物を捕まえるのに何のエサが必要かな？

捕まえた生き物で『金魚すくい』してみよう！

保育園に持ち帰ったザリガニ、メダカ、エビなどを水槽に入れて、試しにやってみたけれど・・・

あれ・・・メダカが弱ってる？？

「メダカがかわいそうだよね・・・。」
「でも、やっぱり本物の金魚すくいがいいな・・・。」

言葉による伝え合い

思考力の芽生え

どうしよう？他の方法はある？

金魚は手作りしよう！
捕まえた生き物は大切に育てよう！

自然との関わり・生命尊重

メダカとエビを捕まえたよ。これで金魚すくいができるね

どんなお店にしたい？どんな準備が必要？

『やることリスト』

地域のお店でお買い物

どんな材料があれば金魚が作れるかな

自立心

協同性

みんなで作った夏祭り
『金魚すくい』は大盛況！

わぁ、金魚が泳いでる！本物みたい！！

本物の金魚に見えるように・・・丁寧に塗りたい

豊かな感性と表現

保育の振り返り 小学校教育につながるもの

表現のための基礎的な技能の基礎の獲得、試行錯誤、工夫、友達の考えに触れて新しい考えを生み出す、次への見通し、好奇心、葛藤、折り合い、目的の共有、自然への関心、生命尊重　など

「何を作るか」「どんな材料が必要か」などをワクワクした表情で話し合う様子があった。『やることリスト』を保育者と一緒に考え、可視化したことで、さらに目的が明確になった。見通しをもって作ろうとしたり、出来上がりをイメージして試行錯誤しながら作ったりするなどして、表現する楽しさを感じながら、やりたいことに夢中になって取り組んだ。

本物らしさを求めて「本物の生き物を用意したい」という思いと、「生き物を使うことがかわいそうになった」という思いの間で、子どもも保育者も葛藤した。多様な意見に触れたり、様々な感情を体験することで、自分の気持ちに折り合いをつけたり、「他にどんな方法があるだろう」と考えたりしながら、最後まで取組み、自分の思いを実現することにつながった。

つながりのある保育

体を動かす楽しさを味わい、楽しく遊ぶ方法を考える
～みんなで楽しむ「おにあそび」を考えよう～

5歳児（11月）

これまでの子どもの姿

保育者や友達と一緒に様々なおにあそびを楽しんでいる。また、ルールのある遊びを通して“楽しい” “嬉しい” “悔しい” 等の様々な気持ちも経験している。園庭に行くと、「バナナおにがしたい」「氷おにがしたい」と自分のやりたいおにあそびを伝えたり、子どもたちでおに役を決めたり、遊ぶ中で問題が起きると話し合ったりする姿が見られる。

ねらい

・戸外で身体を動かして遊ぶ。
・友達や保育者と一緒にルールのある遊び（おにあそび）を楽しむ。
・自分の思いを自分なりの言葉で伝えたり、相手の思いを知り、どうしたらよいか考えようとする。

環境の構成と保育者の援助のポイント

・おにあそびをする際に危険な箇所やどうして危ないのか、どうしたらよいのかを一緒に考える。
・ルールが曖昧だったり、理解にずれがある時は、「どのようなルールだったか」等を問いかけ、自分たちでルールを確認できるようにする。
・子どもが思いを伝え合っている時には、その様子を側で見守り、必要に応じて子どもの思いを言葉で代弁したり仲立ちしたりしていく。

実践事例

保育の振り返り　小学校教育につながるもの

身体的技能の基礎の獲得、様々な気付き、ルールの理解、工夫、言葉による伝え合い、話合い、次への見通し、相手の気持ちの受容　等

生活や遊びの中で、友達と共通のルールを考え、遊びを展開している姿が見られた。時間や空間を十分に確保することで、友達と一緒に身体を動かして遊ぶことの楽しさを感じられるようになった。また、ルールのある遊びの楽しさが分かり、子ども同士で「何をしたいか」「鬼はどうするか」等の話し合いをして進めていこうとしていた。

実践事例　　多摩川の学び舎　瀬田小学校

つながりのある授業

体育　単元名「おにあそび」〔1時間目（全5時間）〕
みんなで楽しむ「おにごっこ」をしよう

小学1年生（5月）

就学前施設での子どもの経験

・どのような鬼ごっこを経験してきたのか、園から情報提供を受ける。また児童からも引き出し、想起させる。
・休み時間に鬼遊びをし、児童の経験を把握する。
・鬼ごっこ・ふえ鬼・こおり鬼・バナナ鬼・いろ鬼・どろけい・手つなぎ鬼など、鬼遊びについて、児童同士の共有を図る。

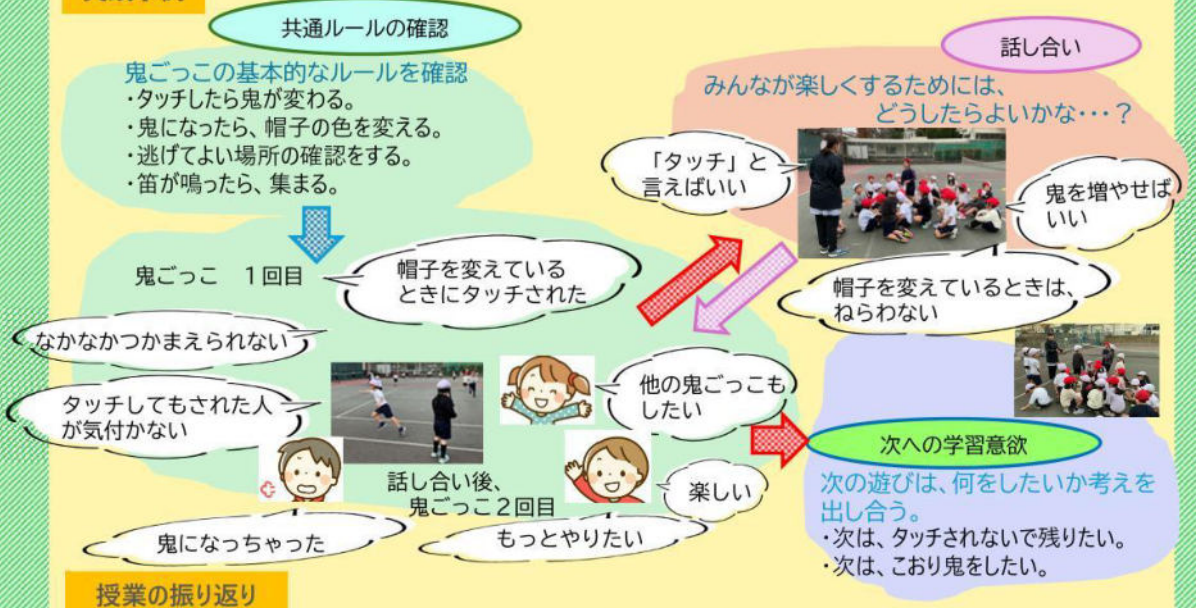
ねらい

・遊びながらルールを守り、楽しく運動することができる。
・それぞれの園でのルールを共有し、クラスでの共通のルールを決め、みんなで楽しむためのルールを考えることができる。

幼児期の育ちを踏まえた工夫・ポイント

・幼児期に遊んだ「鬼ごっこ」でのルールを想起させ、ルールを決めるところから始めた。
・タッチする時に友達を強く押さないこと、鬼はタッチするとき「タッチ」と言うこと、逃げてもよい範囲などについて、共通点を見付けながら児童と共にルールを決め、約束として確認した。
・逃げ方や捕まえ方、ルールを工夫して、いろいろな鬼ごっこをしようとする意欲につなげた。
・紅白帽子やタグ、人数や場を活用して、いろいろな鬼ごっこを楽しめるようにした。

実践事例



授業の振り返り

・児童が、幼児期の遊びを振り返り、今の学級での遊ぶための共通ルールを決めて始めたことで、鬼遊びをみんなで楽しむことができた。
・教師が「どうしたらいい？」と、みんなが納得のいくルールを決めて行うことで遊びが楽しくなり、「もっとやりたい。」という気持ちにしていくことができた。繰り返し行うことで、体育科で自ら考えを表現する児童の姿が増えた。
・一人一人の考えを受け止め、クラス全体に広げることで、教師に見守られているという安心感を満たし、次の学習への意欲を高めた。
・授業で経験した内容から、休み時間や放課後にも楽しむ姿が見られた。また、仲良く遊ぶために、授業でしたようにルールを順に確認し、遊び始めるなど工夫する姿が見られた。

実践事例　　世田谷杜の学び舎　世田谷保育園・若林小学校

職員同士の交流

持続可能な保小連携
～子どもの育ちをつなげるために～

ねらい

・保育園・小学校の職員同士が互いに無理のない形で関わり続け、持続可能な連携・交流 をする

実践のポイント

・学び舎モデル園として２年間研究に取り組み、保育園と小学校の連携・交流を積み重ねてきた。研究期間終了後も、「一度きりでは終わらせない」「形だけの交流にしない」ことを大切にし、持続可能な方法を模索している。
・『職員交流会は８月最終週に実施という時期の固定化により、日程調整の負担を軽減した連携の継続をする。
・互いに負担にならない規模や内容、時期や頻度を工夫し、持続可能な連携の実現に向けて実施する。

実践事例

年間スケジュール

4～５月	保小学び舎担当職員ミーティング （前年度の振り返り・今年度の活動計画の打ち合わせ）
５月	小学校校庭でのこいのぼり見学（保育園）
８月	最終週　保小職員交流会・交流会後小学校教諭の保育園見学
１２月	５歳児と１年生の交流（お店屋さんごっこ） 小学校代表委員の挨拶運動（小学生が保育園の門前で、挨拶運動をする）
3月	今年度の振り返り・次年度に向けた活動について

POINT

より持続可能な連携の実現のために
～定着している取組みに子どもの姿と大人のアイディアをプラスして～

年度ごとに、子ども達の姿に合わせて、「こんなこと出来るかな」「こんなことやってみたいな」と小学校・保育園の職員同士でアイディアを出し合い、様々な交流をしています。

８月の保小職員交流会の工夫と内容

①事前準備：時期と内容の周知。資料作成は最小限とすることで、互いの負担をなくす。
②ねらい　：保育園職員と小学校教諭が、顔を合わせて語り合う・お互いを知る・つながりを感じる。
③当日　　：保育園・小学校の子どもの姿や困りごと、大切にしている教育観・保育観をグループで共有する。
小学校教諭は保育園を見学して、環境や保育について知る機会とする。
④振り返り：語り合いだけで終わらないように、アンケートに感想や次回に向けてのつながりをどのように考えていくかについて振り返りを行う。
⑤共有　　：お互いの感想や気づき、次年度に向けての意見などを共有する。

交流会
今回のテーマは
『保育園と小学校の連携やつながりを感じる』

＊子どもの姿を10の姿に重ねて一緒に考えることで、就学後の子どもの姿をより共有していけると思いました。

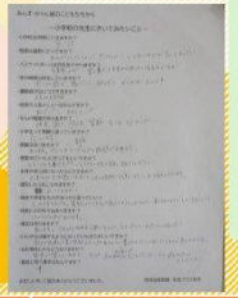
感想

＊園と小学校は全く異なる環境だと思っていたが、子どもの意見を聞いて、一緒に考えて、解決方法を探す部分では「道徳」と同じだと思った。
＊10の姿の項目を職員同士で語り、知ってもらえたことはお互いの教育・保育を理解でき大きいことだと思いました。

＊10の姿の項目を職員同士で語り、知ってもらえたことはお互いの教育・保育を理解でき大きいことだと思いました。

＊自分たちで考えてルールを作っていくなど年長児と1年生の似ている活動があることがわかりました。

5歳児が、小学校の先生に聞いてみたいことを手紙を書いで聞いています。



小学校の先生方が、園見学に来てくださいました

感想

＊園の環境作りが素晴らしかった。子ども達の興味関心を引く掲示物や作品の展示の工夫等、どれも勉強になった。
＊「子どものやりたいことをとことんやらせてあげる」その姿勢が素晴らしいと思いました。
＊子どもの気付きを大切にしながら保育をしていることを、様々な場面で実感しました。

小学校の先生からお返事がきました。

年長児からの質問	小学校の先生からのお返事
小学校は何時に行きますか	８：１５
勉強はめんどくさいですか	めんどくさくない！楽しい！と1年生が言ってます
人気の給食メニューは何ですか	あげパン、ABCスープ
授業中にトイレに行ってもいいですか	行っても大丈夫です。行きたいときは、先生に言ってください
最初に習う漢字は？	木

交流の振り返り

大まかな年間スケジュールの固定化や役割分担により、持続可能な連携や交流が実現した。内容は毎年変化させることで、子どもの姿に応じた柔軟な取り組みや活動ができている。
職員間交流は、職員一人一人が互いを知り、保小連携やつながりを感じる大きなきっかけとなっている。
5歳児は、交流を終えて、小学生と過ごした時間が『生活』の授業であったことを知り、「楽しい授業があるんだ」と学校生活に楽しさが期待を抱いたり、小学生の交流を通して「優しかった」「楽しかった」と嬉しさや安心感を感じていた。
教職員が、特別な交流から**子どもの育ちをつなげる仲間**へと意識が変化していくことで、子どもの生活・遊び・学びの連続性が意識され、安心した就学につながっている。

実践事例　　多摩川の学び舎　瀬田小学校

子ども同士の交流

生活科 単元名「もうすぐみんな２年生」〔11.12時間目（全14時間）〕
幼児との交流活動
～「おおきくなったね」　小学校はたのしいよっ！て伝えたい～

小学1年生（2月）

これまでの子どもの姿

授業や学校生活などの様々な場面で「やりたいこと」を考える姿が見られた。みんなができる方法を考え、自分のやりたいことを表現したり、友達の案から選んだりして学んできた。

自分自身の１年前を振り返り、園児に「小学校は楽しいよって伝えたい。」という思いが膨らんだ。児童は園児が小学校体験をする方法を、今の自分ができることを基準に考えてしまう傾向にあった。児童が園児の立場で考えることができるように、教員が「幼稚園や保育園の友達は分かるかな。できるかな。」と、何度も問いかけ、子どもが自分で考えたり気付いたりできるようした。

ねらい

・小学校に入ることに対し、不安に思っていることを少なくする。（園児）
・小学校で学んだことを生かし、次の１年生（年長児）に伝えようとする。（１年生）
・次の１年生のことを考えることで、誰かの役に立つという自己有用感を高める。また、１年間の自分の生活を振り返ることで、自分の成長に気付いて生活に生かそうとする。（１年生）

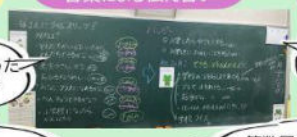
環境の構成と授業者の指導の工夫やポイント

・タイムマシンの映像を見て１年前の気持ちを振り返るなどし、園児の思いを想像して「自らやりたい。」と思える環境を作りながら、一人一人が成長してきたことに気付かせる。
・事前に保育者から「年長児が小学校に対して今もっている気持ちや、１年生になることへの思いや願い」を聞き、想像した１年生の考えと園児の考えとの相違を知ることで、双方の指導や支援、交流の内容に生かせるようにする。

実践内容

当日までの授業の様子

言葉による伝え合い　自立心



自分ができるようになったことを伝えたいな

国語屋さんでは、漢字が書けるといいんじゃない？

あきまつりのときみたいに、お店屋さんみたいにやろう

算数屋さんでは、ブロックを使ったらどうかな

体育屋さんでは、ボールで的当てをしようよ

協同性

交流当日、幼児に優しく声をかけている様子

小学校の体験楽しんでくれるかな(児)

楽しい！もっとやりたいな。(園)

聞いてみる？どの本がいい？(児)

こうやってやると、上手くできるよ(児)

おもしろい(園)

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

１年生の振り返りから

「学校が楽しみになった。もう１回行きたい。」「早く学校に行きたい。」（園児）
「安心できたかな。楽しんでくれたかな。」「最初はうまくいかなくてドキドキしたけれど、喜んでくれてうれしかった。」「１年生になったら、なかよくしてあげたい。」（１年生）

道徳性・規範意識の芽生え　豊かな感性と表現

授業の振り返り　幼児教育からつながるもの

「繰り返し交流することで、子どもや職員同士も顔見知りになり、交流をきっかけに園児も１年生も「安心」から「成長」、「自立」へと変容する様子が見られた。また、１年生は、園児への思いや願いを継続的にもち、交流への主体的な活動に結び付けられるようになってきた。
園では小学校への入学を楽しみに話す姿や、交流を通して経験したことを再現して遊ぶ園児の姿が見られた。また、園児の保護者の中には、進学を心配している姿もあったが、交流後の子どもの姿を通して、保護者も園児も心配から就学への期待に変わるなど、気持ちの変化が見られた。

交流を重ねるたびに１年生が試行錯誤し、園児の立場にたって考える姿が増え、自らの成長に気付くことにつながった。

実践事例　　烏山学舎　烏山北保育園・武蔵丘小学校

就学に向けて
保護者の安心感への
アプローチ

子ども、保護者の安心感につながる 保育園と小学校の交流

これまでの経緯

前年度までは、小学校と保育園で交流の計画をしていたが、学び舎の保育園と小学校の先生、学校支援コーディネーター*で、授業を活用した交流を検討し、今年度はコーディネーターを仲介とした学び舎交流を実施することにする。

＊学校支援コーディネーター：学校からの依頼に応じて、学習活動だけでなく、教育活動全体に関する地域内・外の人材（ボランティア）学校と地域をつなぐ役割を担っている。

ねらい

・園生活との違いを感じながらも、就学への安心感や期待感を持つ。
・小学生との交流を通して、憧れや親しみを感じる。
・交流から、幼児が感じている安心感や期待を保護者に伝え、保護者の安心感にもつなげる。

実践事例　武蔵丘小学校との交流

11月12日　2年生
生活科『もっともっとまちたんけん』

2年生が保育士にインタビューをする目的で来園する。インタビュー後、5歳児と2年生の交流の時間を設ける。卒園児も在籍しており、5歳児に来園する予定であることを伝えると、一緒に時間を過ごすことを楽しみにしている様子だった。当日は、一緒に遊びながら交流し、新しい遊びを教わったり、小学生への憧れが募る時間となった。

一緒に
オセロもしたよ
お姉さんたち、
優しく教えてくれた

コマを作って見せてくれたよ
すごく早く回ってた

11月28日　1年生
生活科『いっしょにたのしもう』

5歳児は、就学前健診を終えて就学への意識が強くなり、小学校で行う秋祭りへの参加を楽しみにしていた。当日は、卒園児との再会を喜んだり、お祭りのお客さんとなり、自然体で楽しんでいた。また、小学校の椅子に座ったり、1年生が司会・進行をする様子を見たりして、背筋を伸ばして聞き入る姿があった。学校生活を身近に感じられ、よい刺激となり就学への期待が高まる。小学生の兄姉の様子も見てみたいという声や、別の学校に就学予定の5歳児からは「自分が通う小学校にも行ってみたい」という声が聞かれた。

1年生って
すごいな

どんなことが
始まるのかな

少しドキドキする〜

交流を経験した5歳児の様子や感じていることを保護者に伝える

クラス便りより

小学生からは、「優しくいっしょに遊んでくれて楽しかった」「忘れていた保育園のころを思い出した」と感想がありました。この後園庭に出て姿が見えなくなるまでお見送りする子どもたちでした。
幼保小学校連携の取り組みとして、昨年度までにも取り組みがありましたが、今年度は初めて来園という機会がありました。こうした地域との交流の取り組みを通して、就学に期待を持てるきっかけになるといいなと思います。1月には武蔵丘小学校に見学に伺う予定もあります。また詳細が決まったらお知らせしますね。

保護者からの声

●通う予定の小学校のお友達が来て、通うのが楽しみになったようです。
●「ひまわり組(年長組）の後は、小学校へ行く」ということに興味を持つようになってきました。しかし第一子で親戚も遠方ということもあり、イメージを身近に感じることができずにいたため、今回はとてもいい機会だと思っていました。就学にあたってイメージを抱きづらい部分を交流を通して埋められること、憧れのお兄さんお姉さんとまた関われることとても良いと思いました。少しずつ社会との関わりを作ってくださり感謝しています。

交流の振り返り

学校支援コーディネーターを介して、交流計画をすることで、授業の内容を活用した交流の機会を得ることができた。継続した交流となり、小学生への憧れや就学への期待が高まっている。子どもたちの姿を保護者に知らせることで家庭の安心にもつながる有意義な機会であった。今後も、学び舎内で連携し、子どもも保護者も安心して就学に向かえるよう交流を継続的に行っていきたい。

「せたがや架け橋プログラム」における用語について	
架け橋期	幼児教育と小学校教育をつなぐ5歳児から小学校1年生までの2年間
架け橋期のカリキュラム	幼保小の先生が、共通の視点をもちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図るため、協働して作成するもの。異なるカリキュラムをもつ幼保小が、接続期の教育・保育をつなぐために作成するもの
幼保小	施設類型関係なく全ての就学前施設と小学校の総称、及び全ての就学前施設における教育・保育と小学校教育の総称
就学前施設	乳幼児教育・保育施設を指して、「園」「就学前施設」「幼保」のいずれかで記載
幼児教育	就学前施設において行われる教育・保育のこと
幼児期	就学前施設において生活する期間の総称
子ども	0歳から小学校就学以降までの乳幼児、幼児、児童・生徒の総称
保育者	幼稚園教諭、保育士、保育教諭及び各施設で教育・保育に従事する者
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿。「10の姿」ともいう。
学び舎（学舎）	中学校区を単位として、就学前施設、小学校、中学校で構成されるグループ
窓口園	学び舎（学舎）で、就学前施設間の連絡を取りまとめる園。各学び舎内に1園ずつ割り当てられる。

参考資料、文献 他
○ 政府発行の文書 ・『幼稚園教育要領解説』（2018）文部科学省 ・『保育所保育指針解説』（2018）厚生労働省 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（2018）内閣府、文部科学省、厚生労働省 ・『小学校学習指導要領解説』（2017）文部科学省 ・『幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための参考資料』（2024）文部科学省 ・『学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～』（2023）中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 ・『幼保小の架け橋プログラムに実施に向けての手引き（初版）』（2022）文部科学省

せたがや架け橋プログラム

―解説と実践の手引き―

発行日　令和　年（２０２　年）　月　日
発行者　世田谷区教育委員会事務局
乳幼児教育・保育支援課
（乳幼児教育支援センター）
〒154-0023
東京都世田谷区若林 5-38-1
TEL　０３（６４５３）１５３７